

【 医 学 部 】

第 6 学 年

<臨床医学系>

BSLアドバンスコース

循環器・血液内科学	6- 1
消化器・リウマチ膠原病内科学	6- 3
腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学	6- 5
神経内科学	6- 7
呼吸器内科学	6-10
腫瘍内科	6-12
臓器再生外科学	6-13
器官制御外科学	6-16
脳神経外科学	6-18
整形外科	6-20
心臓血管外科学	6-22
形成外科学	6-24
産科婦人科学	6-25
小児科学	6-27
眼科学	6-29
皮膚科学	6-31
泌尿器科学	6-33
耳鼻咽喉科学	6-34
神経精神医学	6-36
放射線医学	6-37
放射線治療科	6-39
麻酔科学	6-40
救急医学	6-42

病理学	6-43
輸血・移植免疫学	6-44
感染制御部	6-46
検査部	6-47
歯科口腔外科学	6-48
地域・家庭医療学	
保原中央クリニック	6-50
ほし横塚クリニック	6-51
かしま病院総合診療科	6-52
喜多方市地域・家庭医療センター	6-53
南相馬市立総合病院	6-54
只見町国保朝日診療所	6-56
大原総合病院総合診療科	6-57
会津医療センター	
内科総合	6-58
漢方内科	6-60
上部消化管・胆膵内視鏡	6-62
外科	6-64
協力病院コース	6-66

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスドコース (循環器・血液内科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Cardiology and Hematology)						
担当責任者	竹石 恭知						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

基本的な医療面接、身体診察・バイタルサイン測定の習熟度を高め、循環器・血液内科はもとより内科全般の理解を深める。アドバンスドコースはクリニカルクラークシップと位置づけ、主治医グループ(2週間×2回)の一員として病棟患者の診療を行い、グループミーティングや検査、診断、治療に積極的に参加する姿勢を身につける。また、関連病院研修では当直も経験し内科のcommon diseaseの診療について経験する。

学習目標

【一般目標(GIO)】

循環器内科、血液内科の診療における基本的な医療面接、身体診察法、検査法、診断法、治療法についての習熟度を高め、数多くの症例を通して主要な疾患についての理解を深める。

【行動目標(SBO)】

- 1 担当患者を毎日診察し良好なコミュニケーションの下に必要な情報を得て上級医と討論できる。
- 2 基本的身体診察、バイタルサインの測定を正確に行い評価できる。
- 3 病的心音・心雑音を正しく鑑別できる。
- 4 12誘導心電図を正しく記録し読影できる。
- 5 基本的な心エコー・核医学・心臓カテーテル検査所見を評価できる。
- 6 血液学的検査所見の解釈が正しくできる。
- 7 病態や治療による骨髓像の変化を正しく解釈できる。
- 8 主要な循環器疾患の病態生理、診断法、治療計画を説明できる。
- 9 主要な血液疾患の病態生理、診断法、治療計画を説明できる。
- 10 最新の診療に関するエビデンス(EBM)を検索し担当患者に適応できる。
- 11 造血器腫瘍に対する化学療法を選択できる。
- 12 造血幹細胞移植の原理と適応について説明できる。

テキスト	Year note 内科・外科等編(MEDIC MEDIA 発行)
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ Braunwald's Heart Disease (9th Edition, Saunders) ・ Harrison's Principles of Internal Medicine (17th Edition, McGraw Hill) ・ Wintrobe's Clinical Hematology (11th Edition, Williams & Wilkins)
評価方法	担当入院グループによる診療の様子の評価、循環器・血液自己チェックテスト(筆記試験)、患者カルテ記載の様子、口頭試問などによる。クリニカルクラークシップを念頭においており総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	<p>実習上の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導医の下に患者さんの状態に応じて真摯に診療にあたること。 2. 担当患者の治療方針、病名の告知に関して主治医に予め状況をきいてから対応すること。 3. 時間厳守で行動すること。 4. 病棟用上履きを用意し、手洗いに努めるなど院内感染防止を意識すること。 5. 協力病院での1週間の実習を希望により行う。

授業計画／担当教員等

<臨床実習計画>

【第1週】

[月曜日] 午前 8:45 オリエンテーション:医局集合(鈴木均、野地) ※月曜日が祝日の際には火曜日朝8:00に10階東病棟に集合すること

午後 13:00 病棟実習、18:00 心カンファランス

[火曜日] 午前 8:00 クリニカルカンファランス、総回診(竹石、小川、斎藤、鈴木均、野地) / 午後 13:00 病棟実習

[水曜日] 終日 8:30 病棟実習

[木曜日] 終日 8:30 病棟実習

[金曜日] 終日 8:30 病棟実習

【第2・3週】

[月曜日] 午前 8:30 病棟実習 / 午後 13:00 病棟実習、18:00 心カンファランス

[火曜日] 午前 8:00 クリニカルカンファランス、総回診(竹石、小川、齋藤、鈴木均、野地) / 午後 13:00 病棟実習
[水曜日] 終日 8:30 病棟実習
[木曜日] 終日 8:30 病棟実習
[金曜日] 終日 8:30 病棟実習

【第4週】

[月曜日] 午前 8:30 病棟実習 / 午後 13:00 病棟実習、18:00 心カテカンファランス
[火曜日] 午前 8:00 クリニカルカンファランス、総回診(竹石、小川、齋藤、鈴木均、野地) / 午後 13:00 病棟実習
[水曜日] 終日 8:30 病棟実習
[木曜日] 終日 8:30 病棟実習
[金曜日] 午前 8:30 病棟実習 / 午後 12:00 まとめの反省会(竹石、小川、齋藤、鈴木均、野地)

<担当教員>

竹石恭知 / 教授
小川一英 / 教授
齋藤修一 / 准教授
鈴木均 / 兼任准教授 / 不整脈病態制御医学講座
池田和彦 / 兼任准教授 / 輸血・移植免疫学講座
杉本浩一 / 兼任准教授 / 肺高血圧先進医療学講座
義久精臣 / 兼任准教授 / 心臓病先進治療学講座
中里和彦 / 講師
野地秀義 / 講師
國井浩行 / 学内講師
大河原浩 / 学内講師
神山美之 / 兼任講師 / スポーツ医学講座
八巻尚洋 / 助教
木村哲 / 助教
小林淳 / 助教
七島晶子 / 助教
及川雅啓 / 助教
金城貴士 / 助教
鈴木聡 / 兼任助教 / 心臓病先進治療学講座
上岡正志 / 助教
佐藤崇匡 / 助教 / リハビリテーションセンター
植田航希 / 助教
木島幹博 / 客員講師 / 星総合病院心臓病センター
清野義胤 / 客員講師 / 星総合病院心臓病センター
木村秀夫 / 客員講師 / 北福島医療センター
大和田尊之 / 客員講師 / 福島赤十字病院
齋藤富義 / 客員講師 / 白河厚生総合病院
佐藤雅彦 / 客員講師 / 公立相馬総合病院

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (消化器・リウマチ膠原病内科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	大平弘正						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

アドバンスコースでは、病棟医グループの一員としてクリニカルクラークシップの実習、診療の介助および一部分担などの実習を行うこととする。病棟では、グループの担当するすべての患者について、検査および治療計画の立案について参加し、指導医のもとで診療録の作成をする。内科外来では指導医のもと患者の問診、診察をしてもらい今後の検査、治療方針の作成についてディスカッションする。当科で行われている検査についてはその介助に参加してもらい、非侵襲的な検査であれば実際に体験してもらう。アドバンスコースでは実際の患者さんをより多く診てもらおうことで自分の持っている知識との整合性をはかることとする。

学習目標

- 一般目標(GIO)
- 文献検索などで得られる最新の知見をもとに、消化器病およびリウマチ・膠原病領域の多様な疾患・病態に対する理解し、検査・診断・治療計画を立案する方法を修得する。
- 行動目標(SBO)
- 1 腹部超音波検査において、スキルラボアドバンスのファントムを用いて、肝・胆・脾の異常所見を指摘し、鑑別疾患を列挙できる。
 - 2 上部消化管内視鏡検査において、胃炎・胃潰瘍・胃癌の所見を説明できる。
 - 3 消化管出血および総胆管結石症例における緊急治療内視鏡について、方法および介助者の役割について説明でき、スキルラボアドバンスのGI Mentor(シミュレーター)で体験する。
 - 4 肝疾患の診断(画像診断を含む)および治療の基本を説明でき、腹部血管造影、RFA、PEIT等の検査・治療に立ち会い理解を深める。
 - 5 下痢の患者で鑑別すべき疾患を列挙し、必要な検査および治療計画を立てることができる。
 - 6 リウマチ・膠原病の診断、特徴的所見、および治療の基本を説明できる。
 - 7 関節痛患者において鑑別すべき疾患を列挙し、必要な検査および治療計画を立てることができる。
 - 8 不明熱の鑑別すべき疾患を列挙し、必要な検査および治療計画を立てることができる。
 - 9 文献検索を行い、受け持ち患者の疾患について最新の知見を説明できる。
 - 10 症例を要領よくまとめプレゼンテーションし、鑑別診断、問題点などについてディスカッションすることができる。

テキスト	特に指定しない
参考書	Harrison 's Principles of Internal Medicine Textbook of Rheumatology
評価方法	出席日数、レポート等により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	<p>学習上の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アドバンスコース学生は病棟医の一員に準じて扱われる。 2. 患者は常に病気に対する不安があることを認識し、患者の立場で思いやりをもって接すること。患者の心のケアをいつも忘れないこと。 3. カンファランスではディスカッションに積極的に参加すること。 4. 患者さんに不快感を与えないような清潔で端整な服装を望む。また言動や態度にも十分注意すること。 5. 医療チームにおけるチームワークの重要性を学ぶこと。医療に関することや受け持ち患者について不明なことはそのままにしないで、教官や受け持ち医に積極的に質問し、理解しておくこと。 6. 病状に関する患者からの質問に対しては、受け持ち医から解答してもらうこと。 7. 受け持ち患者の疾患について、自主的に文献を調べること。

授業計画／担当教員等

(1・3週目)	(2・4週目)
月曜日	
午前	
8:30 入退院報告	8:30 入退院報告
9:00 大腸内視鏡検査	9:00 大腸内視鏡検査
午後	
13:30 病棟実習	13:30 病棟実習

18:00 膠原病カンファランス	18:00 膠原病カンファランス
火曜日	
午前	
8:30 入退院報告	8:30 入退院報告
9:00 治療内視鏡検査	9:00 超音波内視鏡検査
午後	
13:30 治療内視鏡検査	13:30 治療内視鏡検査
17:00 肝疾患検討会	
水曜日	
午前	
8:30 入退院報告	8:30 入退院報告
9:00 内科新患予診	10:00 ERCP
午後	
13:00 シミュレーション実習	13:30 腹部血管造影検査
17:00 腹部血管造影検査カンファランス	17:00 腹部血管造影検査カンファランス
木曜日	
午前	
8:30 入退院報告	8:30 入退院報告
9:00 教授回診	9:00 教授回診
午後	
13:30 病棟実習	13:30 病棟実習
16:30 症例検討会	16:30 症例検討会
金曜日	
午前	
8:30 入退院報告	8:30 入退院報告
9:00 消化管X線検査	9:00 腹部超音波検査
午後	
13:30 病棟実習	12:00 教授総括(4W)
	13:30 病棟実習
	15:00 実習状況確認(2W)
16:00 内視鏡レビュー	16:00 内視鏡レビュー

・2週目、3週目のいずれか1週間は、以下の関連病院での学外実習が可能です。

大原総合病院、福島赤十字病院、公立藤田総合病院、太田西ノ内病院、福島労災病院、公立相馬総合病院、塙厚生病院

担当教官

大平弘正	主任教授	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
渡辺浩志	教授	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
小林浩子	准教授	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
片倉響子	講師	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
高木忠之	講師	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
高橋敦史	学内講師	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
阿部和道	助教	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
佐藤秀三	助教	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
鈴木 玲	助教	消化器・リウマチ膠原病内科学講座
引地拓人	准教授	内視鏡診療部
近藤祐一郎	客員講師	公立藤田総合病院
黒田聖仁	客員講師	福島赤十字病院
石幡良一	客員講師	大原総合病院
迎 慎二	客員講師	太田西ノ内病院
江尻 豊	客員講師	福島労災病院

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学)						
(英語名称)							
担当責任者	中山昌明 佐藤博亮						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

- 5年次のプライマリーコースの基礎のうえに、以下の点を追加、発展させる。
- 1 入院新患を初診から受け持つことで、診療の実践的対応能力を高める。
 - 2 一般医療現場での実践面の知識、論理、技術の修得(関連病院実習)
 - 3 各領域における最新、最良の医学知識、論理の修得(疾患のレビュー)
 - 4 文献の検索法と科学的批判力の養成(ジャーナルクラブ)
 - 5 医療チームリーダーとしての組織力(5年生の指導)

学習目標

一般目標(GIO)

症例に対する実践によって、患者・医師関係の組み立て方、情報収集(問診、身体診察、検査)及び情報の解釈、論理的思考に基づく臨床的問題解決の方法及び治療の原則を学び、症例の問題に対する文献的考察を介して臨床研究能力を養う。

行動目標(SBO)

- 1 患者と人間関係を構築し、コミュニケーションできる。
- 2 基本的診療技能(問診、身体診察)を実施できる。
- 3 POS 方式に基づく問題点の把握と問題解決計画作成と結果の評価ができる。
- 4 患者の疾患の背景にある病因と病態を把握できる。
- 5 腎疾患の診断・治療の基本を説明できる。
- 6 代謝・栄養学(糖尿病含む)・内分泌学の診断・治療の基本を説明できる。
- 7 高血圧の診断、治療の基本を理解する。
- 8 チーム医療の理解と他の医療スタッフとの関係を構築できる。
- 9 科学的情報収集法と情報(文献等)の評価ができる。
- 10 第一線医療現場の体験を通して、医師の役割を述べられる。
- 11 文献の批判的解釈に基づき、その結果を症例に適用できる。
- 12 臨床研究の意義、方法、解釈について具体的に述べられる。

テキスト

特に指定しない

参考書

「Harrison ' s Principles of Internal Medicine」

評価方法

実習の評価:出席日数+試問+レポートにより総合的に判定

その他(メッセージ等)

学習上の留意事項

- 1 患者への対応:患者は「病める弱者」との認識を持ち、思いやりを持って接すること。
服装、態度、言葉遣いに気をつけること。
病状に関する患者からの質問には原則として回答しないこと。
- 2 クリニカルクラークシップの概念に基づき、教官、受け持ち医、他の医療スタッフとチームワークを形成すること。
- 3 テュートリアルを考え方に基づき、グループ討論、学生同士教官と自由かつ自主的な議論を実施すること。
- 4 科学的思考、証拠(EBM)と倫理性を基本とした問題解決による問題解決型医療を実践すること。
- 5 自主的勉学態度によって未知なこと、理解できないことは自主的に質問、検索をしてその場で修得すること。
- 6 IT 時代の情報収集に必須な英語による医学用語を用いた訓練を、日常的に行うよう心掛ける。
- 7 時間厳守。
- 8 関連病院実習では各病院の責任者の指導に従うこと。往復の交通安全については気をつけてほしい。

授業計画／担当教員等

<<臨床実習計画>>

集合 午前8時30分 8F東病棟カンファランス室

【第1週】

月 午前 入退院報告 オリエンテーション 1例目症例選定 問診 診察
火 午前 入退院報告 外来新患診察実習

午後 チャートカンファランス 総回診 抄読会 医局症例カンファランス(不定期)
 水 午前 入退院報告 セミナー 病棟実習
 午後 病棟実習 糖尿病内分泌代謝カンファランス
 木 午前 入退院報告 セミナー 病棟実習
 午後 プライマリーコース中間試問参加
 金 午前・午後 関連病院実習

【第2週】

月 午前 入退院報告 Journal Club演題選定 セミナー
 火 午前 入退院報告 外来新患診察実習
 午後 チャートカンファランス 総回診 抄読会 医局症例カンファランス(不定期)
 水 午前 入退院報告 セミナー
 午後 糖尿病患者教育実習 病棟実習 糖尿病内分泌代謝カンファランス
 木 午前 入退院報告 セミナー 病棟実習
 午後 プライマリーコース試問(症例提示と議論)の指導
 金 午前 入退院報告 病棟実習 プライマリーコースの指導(症例総括)
 午後 プライマリーコースの指導(症例総括) 腎臓組織カンファランス 腎症例カンファランス

【第3週】

月 午前 入退院報告 病棟実習 2例目症例選定
 火 午前 入退院報告 外来新患診察実習
 午後 チャートカンファランス 総回診 抄読会 医局症例カンファランス(不定期)
 水 午前 入退院報告 セミナー
 午後 糖尿病内分泌代謝カンファランス
 木 午前 入退院報告 病棟実習
 午後 プライマリーコース中間試問参加
 金 午前・午後 関連病院実習

【第4週】

月 午前 入退院報告 病棟実習 セミナー
 火 午前 入退院報告 外来新患診察実習
 午後 チャートカンファランス 総回診 抄読会 医局症例カンファランス(不定期)
 水 午前 入退院報告 セミナー
 午後 糖尿病患者教育実習 病棟実習 糖尿病内分泌代謝カンファランス
 木 午前 入退院報告 セミナー 病棟実習
 午後 プライマリーコース試問(症例提示と議論)の指導
 金 午前 入退院報告 病棟実習 症例総括(1例目) Journal Club発表
 午後 症例総括(1例目) Journal Club発表 腎臓組織カンファランス 腎症例カンファランス

《担当教員一覧》

中山昌明 教授 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
 佐藤博亮 准教授 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
 林 義満 講師 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
 工藤明宏 講師 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
 平井裕之 学内講師 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
 田中健一 学内講師 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座
 旭 浩一 准教授 腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座(生活習慣病・慢性腎臓病(CKD)病態治療学講座)

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (神経内科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	宇川義一						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

内科学における神経系疾患は非常に広範である。我々、神経内科医の関心領域は内科のみにとどまらず、救急医学、脳神経外科、整形外科、神経精神科、心療内科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科などと接点を有する領域である。そして、大脳皮質疾患、間脳、脳幹、小脳、脊髄、末梢神経系、筋肉疾患が神経内科のカバーする領域である。

神経疾患を理解するためには、その基礎となるニューロサイエンス、特に神経解剖学、神経生理学的知識が必須である。このような基礎的知識を基盤として、神経疾患を学ぶことにより、神経疾患をより身近に感じられるようになると思われる。

神経内科学の教育内容は以下に列記する。

神経症候学・神経局在診断学:これらは、神経疾患の部位診断を神経解剖学、生理学的理解を基に演繹するものである。神経疾患には場所的に局所的病変、びまん性病変、散在性病変、非対称病変があり、持続的病変、進行性病変、一過性病変などがある。解剖局所診断学を活用して、これらの病態を理解することが重要である。第4学年、第5学年次に学んだ事項を臨床の現場でより深めていくことが重要である。

学習目標

一般目標(GIO)

神経所見および検査所見から診断を考える過程を理解する。

行動目標(SBO)

- 1 適切な医療面接を行い、カルテ記載ができる。
- 2 神経学的所見を含めた身体所見を系統立てることができる。
- 3 神経所見に基づいた局在診断ができる。
- 4 直像鏡を用いて眼底所見をとることができる。
- 5 髄液所見を説明できる。
- 6 神経画像検査(頭部単純写真、脊椎単純写真、頭部CT、頭部ヘリカルCT、頭部MRI、頭頸部MRアンギオグラフィー、脊椎MRI、脳血流シンチグラフィー等)の異常所見を指摘できる。
- 7 神経生理学的検査法(脳波、末梢神経伝導検査、筋電図、聴覚誘発電位検査、体性感覚誘発電位、視覚誘発電位、磁気刺激検査等)の原理と所見を説明できる。
- 8 筋生検、神経生検の病理学的所見を解釈できる。
- 9 意識障害を鑑別し治療方針を立てることができる。
- 10 めまいを鑑別できる。
- 11 脳脊髄血管障害を鑑別できる。
- 12 髄膜炎、脳炎を鑑別できる。
- 13 中枢神経系脱髄性疾患を鑑別できる。
- 14 末梢神経疾患を鑑別できる。
- 15 痴呆性疾患を鑑別できる。
- 16 神経変性疾患を鑑別できる。
- 17 筋疾患を鑑別できる。
- 18 神経筋接合部疾患を鑑別できる。
- 19 内科疾患に伴う神経系障害を診断できる。
- 20 脊髄障害の高位診断を正しく行うことができる。
脳死判定法を理解し、必要な検査を列記できる。
治療可能な神経疾患を適切に鑑別し、治療方針をたてることができる。

- The Chapters of Neurological Disorders, Cecil ' s Textbook of Internal Medicine, 23rd ed. 2007, WB Saunders Co.
- The Chapters of Neurological Symptoms, Harrison ' s Principles of Internal Medicine, 16th ed. McGraw-Hill.

これらは内科書として過去数十年間世界中で読まれてきているものであり、数年毎に改版されている。神経系の

内容は健全であり、up-to-date である。Cecil は各論が優れており、Harrison はむしろ総論的記述が良い。

- Adams and Victor ' s Principles of Neurology, RD Adams & M victor, 8th ed. 2005, McGraw-Hill.

テキスト	<p>本書はHarrisonの著書による神経系疾患の章をより深めたものであり、神経学の教科書として程度は高く、優れたものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水澤英洋、宇川義一 神経診察:実際とその意義 2011年 中外医学社 ○ 平山恵造編 臨床神経内科学第5版 2006年 南山堂 <p>最も新しい内容に改版された、詳しい教科書である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水野美邦、栗原照幸編 標準神経病学 新しく再編された教科書 2000年 医学書院 ○ Correlative Neuroanatomy, Waxman, Stephen G, 23rd. 1996, Appleton-Lange <p>神経解剖からの機能、局在診断の方法を豊富な図によって解説したもので、研修医にいたる迄有用な参考書である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ベットサイドの神経の診かた 南山堂
参考書	
評価方法	評価方法:実習への出席、入院患者受け持ち症例のレポート発表及びそのまとめの提出により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	<p>学習・実習上の参考事項</p> <p>優秀な臨床医となるには、十分な医学的知識と総合的判断力が要求される。それにもまして、病めるものへの思いやりをもって診療する心を身につけることが必要である。</p>

授業計画/担当教員等																				
<p>実習内容</p> <p>【月曜日】</p> <p>午前 8:30 病棟回診 9:00ガイダンス(教授室・第1週のみ) 病棟実習(神経所見の取り方の講義、入院患者紹介)</p> <p>午後 病棟実習</p> <p>【火曜日】</p> <p>午前 8:30 病棟回診 9:30 新患外来</p> <p>午後 病棟実習</p> <p>【水曜日】</p> <p>午前 8:30 病棟回診 病棟実習</p> <p>午後 病棟実習 18:00 内科合同カンファランス(月1回)</p> <p>【木曜日】</p> <p>午前 8:30 病棟回診 10:00 症例検討会(神経内科病棟)</p> <p>午後13:00 総回診 17:00 抄読会参加(第4ゼミナール)</p> <p>【金曜日】</p> <p>午前 8:30 病棟回診 10:00 神経内科検査実習(頸動脈エコー、神経生理学検査など)</p> <p>午後 病棟実習</p> <p>隔週 希望によって、月、火、水、金曜日は、各教官の出張病院で外来実習も可能である。</p> <p>概要・方針:5年次のBSL プライマリーコースの知識を基に、さらに積極的にかつ深く症例の理解につとめる。外来では、教官と共に外来患者を診察し、各患者の罹患している疾患の病態、経過、診断へのプロセス、エビデンスに基づいた治療法選択の意志決定過程を学ぶ。入院患者を主治医とともに1週間受け持ち、患者の罹患している疾患の病態、経過、診断へのプロセス、エビデンスに基づいた治療法選択の意志決定過程を学ぶ。</p> <p>担当教員一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教員氏名</th> <th>職</th> <th>所 属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宇 川 義 一</td> <td>教授</td> <td>神経内科学講座</td> </tr> <tr> <td>杉 浦 嘉 泰</td> <td>准教授</td> <td>神経内科学講座</td> </tr> <tr> <td>榎 本 博 之</td> <td>講師</td> <td>神経内科学講座</td> </tr> <tr> <td>星 明 彦</td> <td>講師</td> <td>神経内科学講座</td> </tr> <tr> <td>小 林 俊 輔</td> <td>助教</td> <td>神経内科学講座</td> </tr> </tbody> </table>			教員氏名	職	所 属	宇 川 義 一	教授	神経内科学講座	杉 浦 嘉 泰	准教授	神経内科学講座	榎 本 博 之	講師	神経内科学講座	星 明 彦	講師	神経内科学講座	小 林 俊 輔	助教	神経内科学講座
教員氏名	職	所 属																		
宇 川 義 一	教授	神経内科学講座																		
杉 浦 嘉 泰	准教授	神経内科学講座																		
榎 本 博 之	講師	神経内科学講座																		
星 明 彦	講師	神経内科学講座																		
小 林 俊 輔	助教	神経内科学講座																		

榎本	雪	助教	神経内科学講座
松田	希	助教	神経内科学講座
村上	丈伸	助教	神経内科学講座
門脇	傑	助教	神経内科学講座
伊藤	英一	助手	神経内科学講座
井口	正寛	助手	神経内科学講座
熊谷	智広	講師	衛生学・予防医学講座
本間	真理	客員講師	枳記念病院神経内科部長客員講師
斎藤	直史	客員講師	大原総合病院神経内科主任部長客員講師

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (呼吸器内科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	棟方 充、谷野功典、金沢賢也、横内 浩、斎藤純平、佐藤 俊						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	Clinical Clarkship

概要／方針等

このコースでは、実際の呼吸器内科臨床の現場に必要な基本的技術を習得します。具体的には、

- ① 患者さんとの医療面接、身体診察、基本的検査(胸部レントゲン写真など)から、的確に情報を収集し、
- ② それらの情報を基に鑑別すべき疾患を考え、
- ③ さらに確定診断に至るプロセスを理解し、
- ④ 適切な治療方針を考えます。

このために、実習で、呼吸機能検査、胸部CT読影、喀痰グラム染色、呼吸器関連血液検査などについてのSmall Group Teaching (SGT)により、プライマリー・コースから一歩進んだ技術の習得を行います。これらの技術を応用して、入院患者さん、外来患者さんを直接担当し、診断のプロセスを勉強します。また、確定診断に必要な特殊検査(気管支鏡検査、呼気NO 検査など)の実際について学びます。

基本的には卒後研修医と同様、各診療グループの一員として日常呼吸器臨床に参加してもらおうClinical Clarkship形式での実習となります。また、希望に応じて県内関連病院での実習を組み込むことも可能です。

学習目標

一般目標(GIO)

呼吸器疾患診断に必要な技能を体得し、呼吸器病学の知識を個別の症例にあわせて総合的に応用し、正しい鑑別診断及び治療計画を組み立てられる。

行動目標(SBO)

- ① 患者の悩みと問題点を的確に把握し、疾患の診断に結びつけることができる。
- ② 胸部打聴診・腹部触診・神経学的診察・その他の身体診察を系統立てて行うことができる。
- ③ 胸部X線、CTの読影ができる。
- ④ 心電図の読影ができる。
- ⑤ 呼吸機能検査法を理解するとともに、その結果を解釈できる。
- ⑥ 呼吸器関連の血液検査を理解し、病態に応じたオーダーができる。
- ⑦ 問診・身体所見・基本的検査所見から問題点を抽出し、鑑別診断のための検査計画ができる。
- ⑧ 診断のプロセスを含めた病歴を正しく記載し、系統立てて発表することができる。
- ⑨ 診療グループに一員として、コメディカルスタッフとも協力して深慮にあたることができる。

テキスト

参考書

内科学:黒川 清、松沢裕次編集(文光堂)
 内科学:上田英雄、武内重五郎編集(朝倉書店)
 新臨床内科学:高久史磨他編(医学書院)
 Harrison's Principles of Internal Medicine. Mc-Graw Hill.
 Diagnosis of Diseases of the Chest. Fraser and Pare, WB Saunders.

評価方法

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

【担当教員】

棟方 充 / 教授 / 呼吸器内科学講座
 谷野 功典 / 准教授 / 呼吸器内科学講座
 金沢 賢也 / 講師 / 呼吸器内科学講座

横内 浩	／ 講師	／ 呼吸器内科学講座
斎藤 純平	／ 講師	／ 呼吸器内科学講座
佐藤 俊	／ 学内講師	／ 呼吸器内科学講座
二階堂雄史	／ 助教	／ 呼吸器内科学講座
斉藤 香恵	／ 助教	／ 呼吸器内科学講座
福原 敦朗	／ 助教	／ 呼吸器内科学講座
峯村 浩之	／ 助手	／ 呼吸器内科学講座
美佐 健一	／ 助手	／ 呼吸器内科学講座
植松 学	／ 助手	／ 呼吸器内科学講座
平井健一郎	／ 助手	／ 呼吸器内科学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (腫瘍内科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Medical Oncology)						
担当責任者	佐治 重衡						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

がん薬物療法を中心とした腫瘍内科学全般の理解を深める。実際の外来に同席して、基本的な問診・身体診察法を行い、検査法・診断法・治療法について指導医と討議する。また、各種Cancer boardやミーティングに出席し、他科や多職種との連携に積極的に参加する姿勢を身につける。Up to Dateなどを用いたエビデンスの利用法を学ぶ。

学習目標

【一般目標】

がん治療、特に薬物療法についての知識と経験を得る。

【行動目標】

- 1)がん薬物療法の適応となる患者を判断できる。
- 2)病理、臨床検査、分子生物学、病期診断法などを理解する。
- 3)主要ながんに対する標準的薬物療法を理解し、経験する。
- 4)オンコロジーエマーゼンシーへの対応方法を理解する。
- 5)がん告知、薬物療法を行う際のインフォームドコンセントなどがん診療に関連する生命倫理的配慮ができる。
- 6)看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどとのカンファレンスで問題点を議論できる。

テキスト

特に指定しない。

参考書

「新臨床腫瘍学」(南江堂)
「がん診療レジデントマニュアル」(医学書院)

評価方法

出席日数、レポート等により総合的に判定される。

その他(メッセージ等)

- 学習上の留意事項
1. 患者への思いやりを忘れず、服装や態度、言葉使いに気を付けること。
 2. 個人情報の取り扱いに注意すること。

授業計画／担当教員等

【授業計画】

【月曜日】

午前:(第1週目)オリエンテーション (2週目)化学療法センター・臨床腫瘍センターミーティング
午後:各種Cancer board

【火曜日】

午前:外来実習
午後:各種Cancer board

【水曜日】

午前:講義・自習
午後:外来実習

【木曜日】

午前:外来実習
午後:腫瘍内科カンファレンス

【金曜日】

午前:講義・自習
午後:外来化学療法センターミーティング

【実習担当指導医】

佐治 重衡 主任教授 腫瘍内科学講座
木村 礼子 助教 腫瘍内科学講座
佐々木 栄作 助手 腫瘍内科学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (臓器再生外科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	鈴木 弘行						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

5年次のプライマリーコースの基礎の上に、以下の点を追加発展させる。

1. 代表的外科疾患の手術経験(外部病院実習)
2. 基本的外科手技の習得(大学病院実習。シミュレーション実習)
3. 最新の医学知識の習得(英文抄読会)
4. 移植実験の見学
5. チームリーダーとしての指導力(5年生の指導)
6. 国内外の学会、研究会に参加して最新の学術情報に触れる。(希望者のみ)。

学習目標

一般目標(GIO)

基本的な外科関連疾患に関する診断および治療、特に、外科治療の実際を理解する。

行動目標(SBO)

1. 消化器外科、呼吸器外科、小児外科の手術を見学し、基本的な手順を説明できる。
2. シミュレーション実習で縫合・結紮ができる。
3. シミュレーション実習で中心静脈穿刺を行うことができる。
4. 手術において、皮膚縫合、体腔内結紮を行うことができる。
5. 関連病院の手術に第2助手として参加する。
6. 隣・隣島移植の動物実験を見学する。
7. 最新の英語文献を読み、抄読会において詳細を説明できる。
8. アニマルラボでのセミナーに参加し、見学した手術操作を実施する。

テキスト

特に指定しない

参考書

Digestive Surgery Now(DS NOW)シリーズNo.1～No.12(メジカルビュー社)
呼吸器外科手術書・改訂第5版(金芳堂)
スタンダード小児外科手術(メジカルビュー社)

評価方法

実習の評価:出席日数・関連病院の実習レポート・抄読会

その他(メッセージ等)

- 実習中の注意事項
1. 5年次プライマリーコースの注意事項を参照。
 2. 特に関連病院実習では福島県立医科大学医学部の学生であることを自覚すること。
 3. 関連病院実習中でも大学と連絡が取れるようにすること。

授業計画／担当教員等

【臨床実習計画】

- 1)実習スケジュールは、各人の希望により、個別に対応する。
アドバンスコースの選択が決まり次第、臓器再生外科学生係(内線2334)へ連絡を取り、実習計画を立てる。
- 2)大学病院実習
朝8時までに7階西病棟カンファランス室に集合。
各人希望の臨床グループへ所属するが、グループの枠にこだわらず他の臨床グループの手術、処置等も自由に参加する。
大学実習の間に各人指導責任者の指導を受け、抄読会発表の準備をする。
- 3)基礎研究実験
スケジュールが合えば参加する。
- 4)抄読会
7階西病棟カンファランス室にて実施。
各人英語の論文を1編ずつ担当する。
1人約10分で発表する。
外部病院実習の場合は早目に集合のこと。
- 5)病気等の都合により欠席する場合は必ず電話連絡をすること。

【外部病院実習】

- 1) 済生会福島総合病院
所在地:福島市大森字下原田25番地
電話番号:024-544-5171
朝9時までに受付へ行き、医局へ案内してもらう。
手術のない日は患者回診や外来見学などを行う。
担 当:井上 仁、岡野 誠、三瓶光夫、星野 豊、櫻村省吾
- 2) 福島赤十字病院
所在地:福島市入江町11-31
電話番号:024-534-6101
月曜日朝8時に受付へ行き、医局へ案内してもらう。
手術のない日は患者回診や外来見学などを行う。
担 当:芳賀基市、今野 修、大石明雄、菅野隆三、郡司崇志ほか
- 3) 福島労災病院
所在地:いわき市内郷綴町沼尻3
電話番号:0246-26-1111
実習開始前日・日曜日の夕方に病院窓口へ、宿舎の準備あり
担 当:武藤 淳、又吉一仁、宮澤正紹、塩 豊、石井 恒ほか
- 4) 米沢市立病院
所在地:米沢市相生町6-36
電話番号:0238-22-2450
実習開始前日・日曜日の夕方にまたは月曜日朝8時に病院窓口へ、宿舎の準備あり
担 当:北村正敏、菅野博隆、橋本敏夫、佐藤佳宏、芳賀淳一郎
- 5) 総合南東北病院
所在地:郡山市八山田7-115
電話番号:024-934-5322
月曜日朝8時に受付へ、1週間宿泊実習で宿舎あり、各人自分の名札、上履きを持参する。実習中にレポートを提出する。
担 当:寺西 寧、阿部 幹、高野祥直、藤生浩一、佐藤 直、鈴木伸康ほか
- 6) 公立藤田総合病院
所在地:伊達郡国見町大字塚野目字三本木14
電話番号:024-585-2121
月曜日朝8時45分に医局へ行き、寺島信也先生に連絡してもらう。
担 当:寺島信也、木暮道彦、渡辺 智
- 7) 公立岩瀬病院
所在地:須賀川市北町20
電話番号:0248-75-3111
朝9時まで医局へ 宿舎の準備あり
担 当:三浦純一、伊東藤男、土屋貴男、大谷 聡、齋藤敬弘
- 8) 竹田総合病院(呼吸器外科のみ)
所在地:会津若松市山鹿町3-27
電話番号:0242-27-5511
朝9時まで医局へ 宿舎の準備あり
担 当:岡部 直行

【担当教員一覧】(教員氏名・職・所属・備考 の順)

見城 明・准教授・臓器再生外科学講座・肝胆膵グループ
丸橋 繁・講 師・臓器再生外科学講座・肝胆膵グループ
木村 隆・学内講師・臓器再生外科学講座・肝胆膵グループ
佐藤 直哉・助 手・臓器再生外科学講座・肝胆膵グループ

大須賀文彦・学内講師・臓器再生外科学講座・消化管グループ
佐瀬善一郎・助 教・臓器再生外科学講座・消化管グループ
遠藤 久仁・助 教・臓器再生外科学講座・消化管グループ

花山 寛之・助 手・臓器再生外科学講座・消化管グループ
鈴木 弘行・教 授・臓器再生外科学講座・呼吸器グループ
樋口 光徳・講 師・臓器再生外科学講座・呼吸器グループ
米地 敦・助 教・臓器再生外科学講座・呼吸器グループ
長谷川 剛生・助 教・臓器再生外科学講座・呼吸器グループ

山下 方俊・助 教・臓器再生外科学講座・小児グループ
清水 裕史・助 教・臓器再生外科学講座・小児グループ

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (器官制御外科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	大竹 徹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

5年次のプライマリーコースで身につけた基礎的スキルのうえに、外科医療を実践するためのより高いレベルの知識と技術を習得することを目標とする。配属されたグループ(消化管、肝胆膵、乳腺・内分泌・甲状腺)に4週間所属し、腫瘍外科における診断・治療のプロセスを理解する。また、所属以外のグループの検査・手術にも随時参加可能であるので、積極的な実習参加が望まれる。
*2週間コースを選択した場合は、配属されたグループに2週間所属することとする。

学習目標

一般目標(GIO)

チーム医療の重要性を認識しスタッフとの関係を構築しながら、周術期の外科担当患者に継続して関わることにより、外科手技の基本を身につけ、外科医療のダイナミズムを理解する

行動目標(SBO)

- 1 チームの一員として担当患者に接し、情報収集・情報の解釈・問題解決を行うことができる
- 2 手術症例カンファランスにて担当症例について説明できる
- 3 担癌患者に対して適切に接することができる
- 4 手術に参加し、皮膚切開、縫合、結紮法などの手技を行うことができる
- 5 自動縫合器・電気メスなどの医療機器を操作できる
- 6 シミュレーション実習で、基本的な内視鏡下外科手術手技を行うことができる
- 7 Tissue lab(生体材料を用いた縫合・結紮・消化管再建手技実習)およびAnimal lab(豚を用いた腹腔鏡手術実習)に参加する
- 8 関連病院実習で幅広い疾患や手術を経験する
- 9 関連病院実習で地域医療連携に積極的に参加する

*2週間コースを選択した場合は行動目標(SBO) の8, 9は省く。

テキスト

特に指定しない

参考書

医学生のための外科学(南山堂)、外科学(朝倉書店)
標準外科学(医学書院)、外科臨床研修(ヘルス出版)

評価方法

評価は出席日数、平常点、プレゼンテーション、その他の方法により総合的に判定される。

その他(メッセージ等)

- 学習中の留意点
1. 患者には思いやりを持って接し、服装、態度、言葉使いに気をつけること。
 2. 病状に関する患者からの質問には原則として回答しないこと。
 3. 時間厳守すること。
 4. 個人情報の取り扱いには十分配慮すること。
 5. 関連病院実習では原則、各病院の医師の指示に従って行動すること。
 6. 関連病院実習の際の交通手段は、事故防止のため公共交通機関を利用することが望ましい。

*2週コースの場合は5, 6は省く。

授業計画／担当教員等

臨床実習計画

1. 4週間、消化管、肝胆膵、乳腺・内分泌・甲状腺のいずれかのグループに所属し研修する。
 2. 手術・検査等への参加は所属グループにとらわれず、自由に参加することが可能である。
 3. 月曜日の午後はスキルラボにてシミュレーター研修を行い、習熟度を評価する。
 4. 実習期間のうち最低1週間は関連病院での学外実習とする。
- *2週コースの場合は関連病院での学外実習は行わない。

学外実習

- 1)大原綜合病院 (電話 024-526-0350)
集合場所: 4F 医局
集合時間: AM 8:45

自宅より通勤

2) 寿泉堂総合病院 (電話 024-932-6363)

集合場所: 5F 医局

集合時間: AM 9:00

宿直場所: 当直室 朝夕は病院食が出ます。

3) 太田西ノ内病院 (電話 024-925-1188)

集合場所: 2F 医局

集合時間: AM 9:00

宿直場所: 病院宿舎 昼は病院食が出ます。

4) 星総合病院 (電話 024-923-3711)

集合場所: 3F 医局

集合時間: AM 9:00

宿直場所: 病院宿舎 朝昼は病院食が出ます。

希望があれば、他の関連病院での研修も個別に対応する。

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (脳神経外科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Neurosurgery)						
担当責任者	齋藤 清						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

クリニカルクラークシップに基づき、主治医の一人として脳神経外科臨床を実習する。
 第1～2週目は臨床研修協力病院(福島赤十字病院、南東北福島病院、柊記念病院)にて第一線病院の脳神経外科臨床を実習する。入院患者の診察や手術、特に救急患者の診察、処置、治療には積極的に参加する。
 第3～4週目は大学病院において主治医の一人として入院患者を担当し、病歴聴取、神経所見チェック、画像診断を行い、治療計画作成に参加し、手術では助手として手術を手伝い、術後管理や検討会でのプレゼンテーションにも参加する。
 (人数によっては、第1～2週目と第3～4週目を逆にしたカリキュラムと2パターンにすることがある。)
 全体を通して、救急患者があれば搬入時から担当医とともに診断や初期治療にあたるなど、より患者に密着した積極的な臨床実習を行う。また、受け持ち患者以外でも、病棟処置や手術助手などできるだけ参加する。空き時間があれば、手術顕微鏡による血管吻合実習を行い、顕微鏡手術の基本手技を習得する。
 受け持ち患者の問題点など与えられた課題について学習し、カンファレンスで発表する。
 脳神経外科医局には学生用図書が常備されているので、自ら学習するとともに、不明な点は指導医に相談すること。

学習目標

【一般目標(GIO)】

系統講義とBSL プライマリーコースの基礎の上に、脳神経外科で扱う疾患の診断・治療の基本を理解し、より実践的な知識と手技の習得を目指す。また、医師として大切な人を思いやる気持ちや協調性を身につける。

【行動目標(SBO)】

1. 脳神経疾患を有する患者とコミュニケーションをとれる。
2. 意識障害、神経脱落症状、高次脳機能障害を的確に診断できる。
3. 画像所見の異常を的確に指摘し、基本的な診断と治療方針を述べることができる。
4. 術野にみえる神経や血管の名前を述べるができる。
5. 代表的な脳神経外科手術手技について説明することができる。
6. 受け持ち患者の手術手技について重要なポイントを説明できる。
7. 手術の助手をすることができる。
8. チーム医療を理解し、他の医療スタッフと協調できる。

テキスト

特に指定しない。

参考書

標準脳神経外科:佐々木富男、峯浦一喜、新井 一、富永悌二 編集(医学書院)
 ベッドサイドの神経の診かた: 田崎義昭、齋藤佳雄 著、坂井文彦 改訂(南山堂)
 EBMに基づく脳神経疾患の基本治療指針: 田村 晃、松谷雅生、清水輝夫 編集(メジカルビュー社)
 脳神経外科学: 太田富男、松谷雅生 編集(金芳堂)
 グリンバーグ脳神経外科学ハンドブック: 太田富男 監訳、黒岩敏彦ら 訳(金芳堂)

評価方法

4週間の積極性や遅刻・欠席の有無など実習に対する姿勢を重視し、知識(神経所見、画像所見、解剖、診断など)と技能(病棟および手術室での手技)も加味して総合的に判定する。

その他(メッセージ等)

1. 臨床は人間学であり、医学の内容もさることながら人間に対する真の思いやりとは何かを学んでほしい。
2. クリニカルクラークシップを実践し、主治医の一人としてBedside での実習を心掛けること。救急患者の診療にも参加すること。
3. 教科書に書かれている一行を実際に行うために、どれだけの知識と労力が払われているかということを理解してほしい。
4. 実習中の疑問や質問はそのままにしないこと。担当医に積極的に質問したり、図書、インターネットなどを駆使して解決するように努めること。
5. 時間を守ることは、社会人としてのマナーである。遅れる場合は連絡すること(内線2352)。また実習中の所在をはっきりさせ、常に連絡が取れるようにしておくこと。
6. 関連実習病院では、各病院の指導責任者に従うこと。往復の交通安全については十分に注意すること。

授業計画／担当教員等

【実習計画】

第1週月曜日の朝に大学で朝会に出席してから、実習先の関連病院(福島赤十字病院、南東北福島病院、柊記念病院)に向かう。第2週の日曜日には午後5時までに大学に戻り、回診に参加して、次週からの実習内容を担当医と打ち合わせする。

「第1～2週目」

月:07:45～ 第1週:朝会(7階東病棟カンファランス室)、朝会終了後、関連病院にて臨床実習
08:30～ 関連病院にて臨床実習
火:08:30～ 関連病院にて臨床実習
水:08:30～ 関連病院にて臨床実習
木:08:30～ 関連病院にて臨床実習
金:08:30～ 関連病院にて臨床実習
17:00～ 第2週:大学病棟回診と打ち合わせ(7階東病棟カンファランス室)

「第3～4週」

月:07:45～ 朝会(7階東病棟カンファランス室)
09:00～ 手術助手(手術室)
18:00～ 術前術後症例検討会(医局カンファランス室)
火:08:00～ 朝会(7階東病棟カンファランス室)
09:00～ 病棟処置、患者診察(7階東病棟)、時間があれば顕微鏡手術実習(医局実習室)
17:00～ 病棟回診(7階東病棟)
18:00～ 術前術後症例検討会(医局カンファランス室)
水:07:30～ 術前症例検討会、受け持ち患者プレゼンテーション(医局カンファランス室)
09:00～ 手術助手(手術室)、または
病棟処置、患者診察(7階東病棟)、時間があれば顕微鏡手術実習(医局実習室)
17:30～ 術前術後症例検討会など(医局カンファランス室)
木:07:45～ 抄読会・朝会(7階東病棟カンファランス室)
09:00～ 手術助手(手術室)、または
病棟処置、患者診察(7階東病棟)、時間があれば顕微鏡手術実習(医局実習室)
金:09:00～ 病棟処置、患者診察(7階東病棟)、時間があれば顕微鏡手術実習(医局実習室)
17:00～ 病棟回診(7階東病棟)

【担当教員】

大学:

齋藤 清(教授)、佐久間潤(准教授)、藤井正純(准教授)、佐藤 拓(講師)、市川優寛(講師)、岸田悠吾(講師)、
神宮字伸哉(助教)、織田恵子(助手)、岩楯兼尚(助手)

福島赤十字病院:

渡部洋一(院長、臨床教授)
鈴木恭一(脳神経外科部長)
市川 剛(脳神経外科部長)

南東北福島病院:

浅利 潤(理事長特別補佐監兼執行本部長・脳卒中センター長、臨床教授)
仲野雅幸(院長代行)
佐藤光夫(在宅医療センター長)

栞記念病院:

太田 守(院長、臨床教授)
佐藤直樹(脳神経外科部長)

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (整形外科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	紺野慎一						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等
 5年次のプライマリーコースを基礎として、整形外科医療の実践的な知識と技術を習得する。その方策として、クリニカルクラークシップの概念に基づき、病棟の各診療グループに所属して、その中で実践的な整形外科学の知識のみならず、科学的思考、証拠に基づく論理的な医療(EBM)を基本とした、問題解決型医療についての基礎的知識を修得する。さらに、医療倫理、チーム医療の重要性について学ぶ。

学習目標

- 一般目標**
 外来診療と入院診療における整形外科的保存療法と手術療法を体験し、運動器疾患の診断を行い、治療計画を立てることができる
- 行動目標**
- 腰痛・四肢関節痛を訴える患者の病状、病態、および疾患について説明できる
 - 腰痛・四肢関節痛を訴える患者の基本的な診察ができる
 - 腰痛・四肢関節痛を訴える患者の画像検査法とその異常所見を具体的に述べられる
 - 運動器疾患に対する治療計画の立て方を述べられる
 - 無菌的操作による関節穿刺・注射を行える
 - 骨折に対する外固定を介助できる
 - 清潔手術野を適切に準備できる
 - 整形外科的手術手技の基本(止血、骨接合、腱縫合、神経縫合等)を述べられる
 - 創処置(創のドレッシング)を適切に行える
 - 術後合併症の種類とその対応策について述べられる

テキスト 特に指定しない

参考書

書名／著者・編者／出版社／出版年

標準整形外科学 第12版／松野丈夫他総編／医学書院／2014

図解四肢と脊椎の診かた／Hoppenfeld S(著)・首藤 貴(訳)／医歯薬出版／1984

整形外科医のための神経学図説-脊髄・神経根障害レベルのみかた, おぼえかた／Hoppenfeld S(著)・津山直一(訳)／南江堂／2005

整形外科プライマリハンドブック 改訂第2版／片田重彦・石黒 隆著／南江堂／2004

NEW MOOK 整形外科シリーズ 1-17／越智隆弘・菊地臣一編集／金原出版／1997-2005

整形外科外来シリーズ／越智隆弘・菊地臣一・龍 順之助編集／メジカルビュー社／1997-2000

運動器の痛みプライマリケアシリーズ／菊地臣一編集／南江堂／2009-2012

評価方法 担当教官による採点と口頭試問等により総合的に評価する。

- その他(メッセージ等)**
- 学習上の留意事項**
- 病棟の診療グループの一員として日々の診療に参加することによって、臨床医に必要とされる知識や態度について深く考えてもらいたい。
 - 第1週目に実際に入院患者さんを受け持ってもらい、担当教官とともにその患者さんを診察して、臨床所見をまとめて、第2週目火曜日の朝行われる入院患者プレゼンテーションの場で受け持った患者さんの診断・鑑別診断・治療方針について発表する。
 - 受け持った患者さんの手術治療に参加して、その所見をまとめる。
 - 受け持った患者さんの術後管理、術後治療計画、リハビリテーションを策定し、担当教官と一緒に評価する。さらに、第3/4週目の入院患者プレゼンテーションの場で術後経過について発表する。
 - 第3/4週のうち、どちらか1週間は関連病院(公立藤田総合病院、大原総合病院、総合南東北病院、星総合病院)の整形外科で実習(外来・手術)を行う。各地域の基幹病院において、地域医療や急性期医療あるいは政策医療について、大学附属病院の整形外科医療との相違を学んでもらう。

授業計画／担当教員等

臨床実習計画

<http://www.fmu-orthop.org/教育-研修/医学部学生に対する教育/bsiアドバンスコース予定表/>

担当教員

教員名/職名/所属/備考(専門)

(附属病院内実習)

紺野慎一/主任(教授)/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/脊椎・脊髄

矢吹省司/教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/脊椎・脊髄

青田恵郎/教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/股関節

大谷晃司/教授/福島県立医科大学医療人育成・支援センター/脊椎・脊髄

穴戸裕章/准教授/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/肩関節

大内一夫/講師/福島県立医科大学附属病院リハビリテーションセンター/足の外科

沼崎広法/講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/膝関節・下肢スポーツ

山田 仁/講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/骨・軟部腫瘍

二階堂琢也/講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/脊椎・脊髄

川上亮一/学内講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/手外科・外傷

大歳憲一/教授/福島県立医科大学スポーツ医学講座/肩関節・上肢スポーツ

大橋寛憲/学内講師/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/股関節

小林秀男/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/膝関節・下肢スポーツ

箱崎道之/准教授/福島県立医科大学ふくしま国際医療科学センター/骨・軟部腫瘍

渡邊和之/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/脊椎・脊髄

加藤欽志/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/脊椎・脊髄

小林 洋/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/脊椎・脊髄

佐々木信幸/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/手外科・外傷

吉田勝浩/助教/福島県立医科大学医学部整形外科学講座/膝関節・下肢スポーツ

(関連病院実習)

佐藤 勝彦/非常勤講師/一般財団法人大原綜合病院院長/脊椎・脊髄

堀川 哲男/客員講師/公立藤田綜合病院院長/脊椎・脊髄

鹿山 悟/客員講師/一般財団法人脳疾患研究所附属総合南東北病院整形外科部長・南東北医療クリニック副院長/脊椎・脊髄

遠藤 康二郎/客員講師/公益財団法人星綜合病院整形外科部長/リウマチ

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(心臓血管外科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Cardiovascular Surgery)						
担当責任者	横山 斉						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

5年次のBSLプライマリーコースを基礎として、さらに心臓血管外科の診療、検査、外科治療を掘り下げて学習する。心臓外科チームのスタッフの一員として、受け持ち患者を選定し、患者記録を作成し、創処置などの外科的手技、エコー検査、手術助手などの実施体験を行う。

学習目標

- 一般目標(GIO)
問診、症候の把握、検査結果等の情報から、文献的考察を介して、適切な心臓血管外科治療について理解する。
- 行動目標(SBO)
1. 患者とのコミュニケーション、基本的診療技能(問診、身体診察)を修得する。
 2. 患者の病因と病態から外科治療法の選択ができる。
 3. 心臓脈管疾患の診断、外科治療の基本を述べるができる。
 4. 心臓脈管手術における補助手段法の仕組みについて説明できる。
 5. 心臓手術におけるチーム医療に参加する。
 6. 心臓脈管疾患の外科治療の実際の方法、術後の患者管理の基本を理解する。
 7. 基本的外科手技を行い、外科手術の介助ができる。
 8. 心臓脈管疾患のベッドサイド検査を行う。

テキスト 特に指定しない

参考書 心臓血管外科テキスト(中外医学社)、心臓外科(医学書院)

評価方法 授業の評価は出席日数、試問、レポートその他の方法により総合的に判定される。

その他(メッセージ等)

県内優良卒後研修指定病院と連携した研修病院体験型心臓血管外科アドバンスコース実習を行なう。

対象:将来は外科を目指す可能性があり、マッチングでは県内研修病院も候補にする予定である学生。

特徴:

1. 大学病院、太田西ノ内病院、磐城共立病院、会津中央病院、星総合病院が連携
2. 手術参加型実習で、多くの手術に参加できる
3. 複数の研修指定病院で複数の専門医から実習
4. 各病院に学生用宿舎完備
5. 各病院で卒後研修責任者から説明会(希望者のみ)

選択方式と実習要項:

1. 1グループ3名まで
2. 市中病院は各期間1名となるよう学生間で調整
3. 2~4病院を選択して実習
4. 一週間前までにグループ内で研修病院を調整し、心臓血管外科学講座に連絡
5. 実習初日は大学でオリエンテーション、その後各病院へ移動
6. 実習最終日は「教授総括」

コース選択例:

あるグループの例	第1週	第2週	第3週	第4週
学生A(大学+1病院)	大学	／ 大学	／ 西ノ内	／ 西ノ内
学生B(大学+2病院)	西ノ内	／ 大学	／ 大学	／ 磐城
学生C(大学+3病院)	会津	／ 磐城	／ 星総合	／ 大学

授業計画／担当教員等

【臨床実習計画(大学病院)】

「月曜日」
8:30~ オリエンテーション・実習病院確認連絡:医局長

9:00～ 病棟回診(大学実習者):担当助手
各市中病院へ移動(市中病院実習者)
9:30～ 手術見学
15:00～ 病棟実習(ICU):担当助手

「火曜日」

8:00～ 病棟回診:担当助手
9:30～ 手術見学・体外循環講義:佐戸川、高瀬
15:00～ 病棟実習:担当助手

「水曜日」

7:45～ 朝会、抄読会
9:45～ 病棟回診:横山
13:00～ 手術症例カンファランス(全員)

「木曜日」

8:00～ 病棟回診:担当助手
9:30～ 手術見学(小児心臓手術)
15:00～ 病棟実習:担当助手

「金曜日」

8:00～ 朝会、抄読会
9:00～ 病棟回診:担当助手
9:30～ 手術見学

【担当教員】

横山 斉	／ 教授	／ 心臓血管外科学講座
佐戸川弘之	／ 准教授	／ 心臓血管外科学講座
高瀬 信弥	／ 講師	／ 心臓血管外科学講座
若松 大樹	／ 講師	／ 心臓血管外科学講座
瀬戸 夕輝	／ 助教	／ 心臓血管外科学講座
黒澤 博之	／ 助教	／ 心臓血管外科学講座
丹治 雅博	／ 臨床教授	／ 太田西ノ内病院
渡辺 正明	／ 臨床教授	／ 会津中央病院
高橋 昌一	／ 臨床教授	／ 星総合病院
近藤 俊一	／ 臨床教授	／ 総合磐城共立病院

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(形成外科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (plastic surgery)						
担当責任者	上田和毅						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

プライマリーコースの研修項目に含まれていない分野(外来診療、マイクロサージャリーなど)を経験する。

学習目標

一般目標(GIO)

外来診療で形成外科の代表的な疾患を経験し、手術用顕微鏡を用いた血管吻合手技や形成外科的皮膚縫合法を修得する。

行動目標(SBO)

- 1 外来診療の代表的疾患の診断及び治療の手順を説明できる。
- 2 形成外科的縫合法について説明できる。
- 3 外傷処置の手順を説明できる。
- 4 組織移植(皮弁・植皮など)の違いを説明できる。
- 5 代表的な皮弁を列挙することができる。
- 6 手術用顕微鏡下に直径1mmのシリコンチューブやニワトリの血管を吻合できる。

テキスト	標準形成外科(医学書院)
参考書	図説形成外科学講座(1~8巻、メジカルビュー社) 形成外科手術書(鬼塚卓也著、南江堂) Plastic Surgery (Vol. 1~8、Mathes 編、Saunders)
評価方法	出席日数、実習態度、実地試験により総合的に評価。
その他(メッセージ等)	終了後は顕微鏡視野下に血管吻合や神経縫合をすることができるようになるはずです。

授業計画/担当教員等

日	項目	担当者
月曜日	皮膚縫合実習	大河内真之
	マイクロサージャリー実習	大河内真之
火曜日	外来実習	望月靖史
	マイクロサージャリー実習	望月靖史
水曜日	手術参加	斎藤昌美
	マイクロサージャリー実習	斎藤昌美
木曜日	外来実習	上田和毅
	術前術後カンファランス	上田和毅
	マイクロサージャリー実習	大河内、望月、斎藤
金曜日	手術参加	上田和毅
	マイクロサージャリー技術評価	上田和毅

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(産科婦人科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Obstetrics and Gynecology)						
担当責任者	藤森敬也						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習・講義

概要/方針等

4週間(産科病棟(周産期センター)あるいは婦人科病棟)の臨床実習を通して患者と直接接触し、講義では得られなかった実技および患者との人間関係についても習得する。ただし、プライマリーコースと異なり期間中の症例は診断から治療まで担当教官の指導のもと研修医並の実践が伴う。産科学婦人科学においては、ヒトの生存・死亡に関係する診療や、生殖ならびに生命の誕生に関する重要且つ尊厳な課題を取り扱うので、プライマリーコース同様たとえ学生であっても患者の精神的ならびに身体的な影響を十分に考慮し、医の倫理に基づいた言語、服装、態度、行動が望まれる。

学習目標

《産科学》

一般目標(GIO)

担当入院患者症例を通して、指導医の下、正常及び異常妊婦の診察、検査、治療に立ち会い、知識をより深め、実践を身につける。

行動目標(SBO)

- 1 異常妊娠、異常分娩の診断と治療の基本を説明できる。
- 2 帝王切開術に第2助手として参加する。
- 3 帝王切開について説明できる。

4 担当患者の疾患について文献検索し、担当医の指導をうけ、症例報告(スライドプレゼンテーション)という形式で説明・討議することができる。

5 関連学会へ積極的に参加し、より深い知識を習得する。

《婦人科学》

一般目標(GIO)

担当入院患者を通して婦人科疾患の診察、検査、治療(手術)に立ち会い、系統講義で得た知識をより深める。

行動目標(SBO)

- 1 開腹手術及び腹腔鏡下手術に第2助手として参加する。
- 2 代表的婦人科疾患の診断と治療の基本を説明できる。
- 3 術前・術後管理の基本を述べることができる。
- 4 担当患者のかかえる疾患について文献検索を行い、症例の問題点を述べられる。
- 5 症例報告(スライドプレゼンテーション)を行い討議することができる。

テキスト

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気がみえる vol. 9 婦人科・乳腺外科 第3版 MEDIC MEDIA 3,200円 2. 病気がみえる vol. 10 産科 第3版 MEDIC MEDIA 3,500円 3. 池ノ上克ら: エッセンシャル産婦人科学 第3版 医歯薬出版株式会社 9,660円 4. Cunningham, MacDonard, Gant et al: Williams Obstetrics, 24 Edition. McGraw Hill 2014 5. Berek & Novak's Gynecology, 14th Edition, Lippincott Williams & Wilkins 6. Creasy and Resnik: Maternal-Fetal Medicine, 7th Edition W. B. Saunders. 7. 日本産婦人科学会編:産婦人科研修の必修知識、2013 日本産婦人科学会 10,000円
-----	---

評価方法

実習への参加態度、ならびに症例報告(スライドプレゼンテーション)により総合的に評価する

その他(メッセージ等)

- a. オリエンテーションについて
第6学年
 1. 第1週の月曜日、午前8時10分に3階西産科病棟内にある保健指導室に集合する。
 2. 月・水・金曜日午前8時15分より保健指導室で朝会がある。遅刻厳禁、服装をあらかじめ本などの持ち物は常識の範囲内に留める。
 3. 第1週の月曜日、3階西産科病棟内にある保健指導室にて朝会終了後当方のBSL 担当係から習得すべき内容と所属する病棟グループ、実習方法について概略を説明する。
 4. 第2週は、大学病院外実習(福島赤十字病院、寿泉堂総合病院、太田西ノ内病院、竹田総合病院、白河厚生総合病院、いわき共立総合病院)を行う。
- b. 病棟実習について
 1. 指導教官によるman to man 方式である。
 2. 実習した症例の病歴などを病棟外に持ち出すことは禁止されている。
 3. 止むを得ず欠席するときは予め必ず指導教官に連絡する。
 4. 患者の前で診断、病状、予後について不用意な発言をすることは慎み、また教官の許可なく単独で診療行為や病状説明を行ってはならない。

5. 行ってよい手技は制限があるので、すべて指導教官が指示する。

授業計画／担当教員等

<第1・3・4週>

【月曜日】

8:10～ 8:40／朝会
9:00～13:30／外来・病棟・手術
13:30～16:00／病棟・手術

【火曜日】

7:10～ 8:40／医局会
9:00～16:30／外来・病棟

【水曜日】

8:00～ 8:40／朝会
9:00～13:30／外来・病棟・手術
13:30～16:30／病棟・手術

【木曜日】

8:50～13:30／外来・病棟
13:30～14:30／教授回診
15:00～16:30／外来・病棟

【金曜日】

8:10～ 8:40／朝会
9:00～13:30／外来・病棟・手術
13:30～16:30／病棟・手術

<第2週>

希望により、下記病院にて院外実習を実施する

福島赤十字病院
太田西ノ内総合病院
寿泉堂総合病院
白河厚生総合病院
磐城共立病院
竹田総合病院

<症例発表会>

第4週水曜日午後3時から、パワーポイントを用いて行う

当教員一覧

教員氏名	職	所属	備考
藤森敬也	教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
水沼英樹	教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科	ふくしま子ども女性医療支援センター長
高橋俊文	教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科	ふくしま子ども女性医療支援センター
小宮ひろみ	准教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科	性差医療センター
渡辺尚文	准教授	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
菅沼亮太	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科	
添田 周	講師	福島県立医科大学医学部産科婦人科	

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (小児科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	細矢光亮						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

5年次のプライマリーコースの基礎の上に、以下の点を追加する。

1. 関連施設の実習により、第一線の診療を見学し、地域医療の実際を学ぶ。
2. 指導医のもとに準主治医として患児を受け持ち、診断、管理、治療方針を立てる。
3. 指導医と共に当直し、プライマリーケアと小児救急への対応を学ぶ。
4. 文献検索法を学び、受け持ち疾患に関する最新の知見を抄読し、発表する。

学習目標

一般目標(GIO)

小児科診療を通じて成人と小児の相違点を理解し、各患者の問題点を文献的に考察し、臨床能力を修得する。

行動目標(SBOs)

- ①小児の成長・発達の特徴や養育・栄養に関する基本的な知識を説明できる。
- ②小児の病歴を適切に聴取し養育状況を正しく評価できる。
- ③個々の小児の訴えや症状について問題点を指摘し、診断や治療の計画を立てることができる。
- ④代表的な小児疾患の病態、診断、治療、予防を説明できる。
- ⑤新生児、乳児、幼児、学童児の系統的な身体診察を行うことができる。
- ⑥患児およびその養育者、特に母親との間に医師としての好ましい人間関係を築くことができる。
- ⑦小児に対する基本的な診療手技を経験する。
- ⑧関連病院、医院などでの実習を通して、一般小児医療の特徴を説明することができる。
- ⑨致死性あるいは永続的障害や慢性疾患を有する患児や家族とコミュニケーションすることができる。
- ⑩症例に関連する文献的考察を行い発表することができる。

テキスト

特に指定しない

参考書

評価方法

出席日数、受け持ち患児に関する症例呈示を参考にし、実習態度を総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

(学習上の留意事項)

・大学附属病院以外の施設での実習が多くなる。従って、集合時間を厳守する、身だしなみを整える、挨拶するといった社会人としての常識を守る。

授業計画／担当教員等

【臨床実習計画】

第1週目

<学生全員>

月曜日／8:15～オリエンテーション、カンファランス／13:30～病棟実習／16:00～夕回診

<大学病院実習>

火曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟総回診(教授)／13:30～病棟実習／16:00～夕回診／17:00～医局抄読会

水曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～病棟実習／13:00～関連病院実習

木曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～病棟実習／13:30～病棟実習／16:00～夕回診

金曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～外来新患診療実習／13:30～病棟総回診(准教授)／16:00～夕回診

<関連病院実習>

火曜日～金曜日／関連病院担当教官の指示に従う。

第2週目

<大学病院実習者>

月曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～病棟実習／13:00～病棟実習／16:00～夕回診

火曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟総回診(教授)／13:30～病棟実習／16:00～夕回診／17:00～医局抄読会

水曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟外来実習／13:00～関連病院実習又は、13:30～病棟実習／16:00～夕回診

木曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟外来実習／13:30～関連病院実習又は、13:30～病棟実習／16:00～夕回診

金曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～外来新患診療実習／13:30～病棟総回診(准教授)／16:00～夕回診

<関連病院実習>

月曜日～金曜日／関連病院担当教官の指示に従う。

第3週目

<大学病院実習者>

月曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～病棟実習／13:00～病棟実習／16:00～夕回診

火曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟総回診(教授)／13:30～病棟実習／16:00～夕回診／17:00～医局抄読会

水曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟外来実習／13:00～関連病院実習又は、13:30～病棟実習／16:00～夕回診

木曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟外来実習／13:30～関連病院実習又は、13:30～病棟実習／16:00～夕回診

金曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～外来新患診療実習／13:30～病棟総回診(准教授)／16:00～夕回診

<関連病院実習>

月曜日～金曜日／関連病院担当教官の指示に従う。

第4週目

<大学病院実習者>

月曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～病棟実習／13:00～病棟実習／16:00～夕回診

火曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟総回診(教授)／13:30～病棟実習／16:00～夕回診／17:00～医局抄読会

水曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟外来実習／13:00～関連病院実習又は、13:30～病棟実習／16:00～夕回診

木曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:00～病棟外来実習／13:30～関連病院実習又は、13:30～病棟実習／16:00～夕回診

<関連病院実習>

月曜日～木曜日／関連病院担当教官の指示に従う。

<学生全員>

金曜日／8:00～朝回診、カンファランス／9:30～外来新患診療実習／13:30～病棟総回診(准教授)／16:00～夕回診

【担当教員一覧】

細矢 光亮・教授・小児科学講座

川崎 幸彦・准教授・小児科学講座

橋本 浩一・准教授・小児科学講座

佐藤 晶論・講師・小児科学講座

陶山 和秀・講師・小児科学講座

加藤 朝子・助教・小児科学講座

大原信一郎・助教・小児科学講座

青柳 良倫・助手・小児科学講座

遠藤 起生・助手・小児科学講座

鈴木 雄一・助手・小児科学講座

菅野 修人・助手・小児科学講座

大原 喜裕・助手・小児科学講座

林 真理子・助手・小児科学講座

前田 創・助手・小児科学講座

高橋 信久・助手・小児科学講座

前田 亮・助手・小児科学講座

佐野 秀樹・准教授・小児腫瘍内科

望月 一弘・助教・小児腫瘍内科

小林 正悟・助教・小児腫瘍内科

桃井 伸緒・教授・周産期・小児地域医療支援講座

佐藤 真紀・講師・総合周産期母子医療センター

郷 勇人・助教・総合周産期母子医療センター

金井 祐二・助手・総合周産期母子医療センター

清水 裕美・助手・総合周産期母子医療センター

宮崎 恭平・助手・総合周産期母子医療センター

羽田謙太郎・助手・総合周産期母子医療センター

柏原 祥曜・助手・総合周産期母子医療センター

石井 勉・客員講師・国立病院機構福島病院

鈴木 重雄・客員講師・大原総合病院

佐久間弘子・客員講師・星総合病院

長澤 克俊・客員講師・竹田総合病院

村井 弘通・客員講師・白河厚生総合病院

三友 正紀・客員講師・福島赤十字病院

大西 周子・客員講師・公立藤田総合病院

市川 陽子・客員講師・いちかわクリニック

磯目 正人・客員講師・いそめこどもクリニック

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (眼科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL ADVANCED COURSE - VISUAL SCIENCE						
担当責任者	石龍鉄樹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	臨床実習

概要／方針等

プライマリーコースで習得した基礎知識の実践の場であり、クリニカルクラークシップに則った参加型実習を行う。
また、視覚障害者の生活上のハンディキャップを知るとともに、眼科的医療の重要性を理解する。

学習目標

一般目標(GIO) :
診断から治療までの一連の眼科診療に参加し、実習を通して基本的眼科手技を理解する。

行動目標(SBOs):

- ① 患者の訴えから、眼疾患の診断に結びつく適切な問診ができる。
- ② 初歩的な視力検査を行い、視力所見を記載できる。
- ③ 細隙灯顕微鏡を用いて角膜、前房、水晶体の異常の有無を指摘できる。
- ④ 倒像鏡を用いた眼底検査で、視神経乳頭の位置と眼底の色調が確認できる。
- ⑤ 眼底カメラで、眼底写真を撮影することができる。
- ⑥ 光干渉断層計(OCT)で黄斑浮腫、黄斑円孔、黄斑前膜の有無を指摘できる。
- ⑦ 眼科レーザー治療装置の種類と用途を学び、模擬眼で実際の照射ができる。
- ⑧ 白内障手術に必要な術前検査を列挙できる。
- ⑨ 白内障手術の基本手技を学び、豚眼を用いて手術実習を行う。
- ⑩ 指導医とともに手術に参加し、顕微鏡下手術の術野の状態を体感する。
- ⑪ 総回診の際に、簡潔で分かりやすい症例提示を行うことができる。
- ⑫ 症例検討会で、担当症例を報告(デジタルプレゼンテーション)し、質疑応答ができる。

テキスト 現代の眼科学(金原出版) 第12版

参考書 現代の眼科学(金原出版) 第12版
Clinical Ophthalmology 5th ed. Jack J. Kanski; Butterworth Heinemann

評価方法 出席日数、実習態度、症例報告、レポートにより総合的に評価する。

その他(メッセージ等) 学習上の留意事項
内科・外科学に準ずるが、患者の視機能障害の程度を十分に把握し、それに応じた対応を心がける。
4週間で代表疾患2症例の受け持ちになり、病歴聴取、カルテ閲覧、術前検査、手術の見学または助手、術後の診療を行い、患者から直接学ぶ。動物眼を用いた顕微鏡手術実習、学外施設での実習を組み入れている。細隙灯顕微鏡、検眼鏡の操作に習熟するために、担当教官と常に密接なコミュニケーションをとり、わからない所見はどんどん質問してほしい。

授業計画／担当教員等

授 業 計 画			
第1・3週	時間	実習内容(担当者)[集合場所]	
月	午前 9:00	オリエンテーション(担当教官決定)[医局]・外来患者検査診察実習[外来]	
	午後 16:00	細隙灯顕微鏡・眼底検査実習[外来]	
火	17:00	病棟回診(担当教官)[病棟]	
	午前 9:00	手術実習(担当教官)[手術室]	
水	午後 13:00	手術実習(担当教官)[手術室]	
	午前 9:00	総回診・患者プレゼン[病棟]・外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]	
木	午後 13:00	外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]	
	17:00	レポート作成(担当教官)[医局]	
	18:00	クリニカル・カンファランス[病棟カンファランス]	
金	午前 9:00	外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]	
	午後 13:00	外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]	
	16:30	wet-lab 白内障手術実習(担当教官)[医局]	
	午前 9:00	手術実習(担当教官)[手術室]	

午後 13:00 手術実習(担当教官)[手術室]

第2・4週 時間 実習内容(担当者)[集合場所]

月 午前 9:00 外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]
午後 15:00 外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]
17:00 病棟回診(担当教官)[病棟]
火 午前 9:00 手術実習(担当教官)[手術室]
午後 13:00 手術実習(担当教官)[手術室]
水 午前 8:00 総回診・患者プレゼン[病棟]・外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]
午後 13:00 外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]
17:00 レポート作成(担当教官)[医局]
18:00 クリニカル・カンファランス・症例レポート発表[病棟カンファランス]
木 午前 9:00 外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]
午後 13:00 外来患者検査診察実習(担当教官)[外来]
金 午前 9:00 手術実習(担当教官)[手術室]
午後 13:00 手術実習(担当教官)[手術室] 実習のまとめ[医局]

※4週のうち1～2日の関連病院[大原総合病院・寿泉堂総合病院・白河厚生総合病院・竹田総合病院]での実習を行うことがある。

担当教員一覧

教員氏名 職 所属

石龍鉄樹 教授 福島県立医科大学医学部眼科
古田 実 准教授 福島県立医科大学医学部眼科
森 隆史 講師 福島県立医科大学医学部眼科
板垣可奈子 助手 福島県立医科大学医学部眼科
小島 彰 学内講師 福島県立医科大学医学部眼科
大口泰治 助教 福島県立医科大学医学部眼科
菅野幸紀 助教 福島県立医科大学医学部眼科
小笠原雅 助手 福島県立医科大学医学部眼科
今泉公宏 助手 福島県立医科大学医学部眼科
堀切紘子 助手 福島県立医科大学医学部眼科
石橋誠一 助手 福島県立医科大学医学部眼科
笠井暁仁 助手 福島県立医科大学医学部眼科

鈴木勝浩 臨床教授 大原総合病院
神田尚孝 臨床教授 寿泉堂総合病院
塩谷 浩 非常勤講師 しおや眼科
藤原聡之 非常勤講師 いたう眼科
佐柄英人 非常勤講師 マルイ眼科
金子久俊 非常勤講師 ほばら眼科
古田 歩 非常勤講師 前田眼科
丸子一朗 非常勤講師 東京女子医科大学
横倉俊二 非常勤講師 東北大学大学院医学系研究科眼科学分野
伊勢重之 非常勤講師 白河厚生総合病院眼科
菊池重幸 客員講師 保原中央クリニック
荒木 聡 客員講師 塙厚生総合病院
平井香織 客員講師 星総合病院
山田文子 客員講師 保原中央クリニック
齋藤国治 客員講師 太田西ノ内病院
近藤剛史 客員講師 竹田総合病院

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (皮膚科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	山本俊幸						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

皮膚科学は年々細分化されてはきているものの、皮膚に表現される症状の全てを取り扱う。そのため、皮膚病変を理解するためには、皮膚の解剖学、生理学、生化学、免疫・アレルギー学、分子生物学などの基礎医学のみならず、内科学的知識や外科学的手技を駆使した多方面からのアプローチが要求される。

BSLでは、実際の皮膚病変に直接接して考えることを目的としている。当然のことながら、患者様に接する場合は、学生気分ではなく、一社会人としての自覚を持って言葉使いや身だしなみに気をつけること。外来実習では、初診患者の病歴を聴取し、同時に皮膚病変の観察を注意深く行う。できるだけ多くの患者様から積極的に問診を取り、何時からどこにどのような病変が出現し、それがどういう経過をたどって今日まで来たか、という必要かつ的確な情報を短時間に取得する訓練をして欲しい。医療面接は、どの科においても共通して必ず役に立つ。このような訓練の場として、皮膚科でのアナムネ取りを活用して欲しい。さらに、発疹の見方や表現の仕方についても繰り返しトレーニングを行い、必要な検査法についても学習する。自分が担当した症例については、その日のうちに、教科書やカラーアトラスで復習しておくこと。病棟入院患者については、患者の受け持ちチームの一員として診療に参加し、種々の皮膚検査、軟膏処置、皮膚生検などを具体的に学び、診断に至る過程についても考察する。

以上の過程を通じて、何故この患者さんにこの皮膚症状が出てきたのかを常に考えながら診察する姿勢を身に付けて欲しい。実習を通じて皮膚科学の面白さを是非実感してもらいたい。

学習目標

一般目標(GIO)

皮膚所見から皮膚疾患の病因、病態を考え、必要な検査および治療計画を作成できる。

行動目標(SBO)

- 1 ステロイド外用療法の適応、注意点を説明できる。
- 2 創傷治癒の機序を説明できる。
- 3 炎症性皮膚疾患、アレルギー性皮膚疾患の病態を説明し、治療方法を列挙できる。
- 4 自己免疫性皮膚疾患の病態を説明し、治療方法を列挙できる。
- 5 腫瘍性皮膚疾患の発症機序を説明し、適切な治療計画を作成できる。
- 6 植皮術の方法、適応、生着機序を説明できる。
- 7 細菌性、ウイルス性皮膚疾患の病態、検査方法を説明できる。
- 8 薬疹の病態を説明できる。
- 9 膠原病の皮膚症状を説明できる。
- 10 皮膚病理の所見を解釈できる。

テキスト

参考書	池田重雄他「標準皮膚科学」医学書院 上野賢一他「小皮膚科学」金芳堂 山田瑞穂「皮膚科学考え方学び方」金原出版 Lever's Histopathology of the Skin, Lippincott-Raven 飯塚一他「New 皮膚科学」南江堂 小山秀興他「TEXT 皮膚科学」南山堂 清水 宏「あたらしい皮膚科学」中山書店
評価方法	出席、臨床実習に入るに際しての準備の程度、実習への意欲、皮膚科学の知識で評価する。 適切な症例があれば、症例検討会での症例提示を行い、症例をまとめる能力も評価の対象とする。
その他(メッセージ等)	皮膚の構造、発疹学、発疹の記載方法について必ず復習してくること。 下記の臨床実習計画の時間は目安である。各臨床実習の開始時間は確認すること。

授業計画／担当教員等

〈臨床実習計画〉					
月	火	水	木	金	
8:00			組織デモ		
8:50	医局集合				
9:00	外来又は病棟実習	外来又は病棟実習	手術	外来又は病棟実習	外来又は病棟実習
13:30	病棟実習	病棟実習	手術	外来手術	外来手術又はレーザー
15:00	外来実習	講義		教授総回診	

17:30

外来カンファランス 病棟カンファランス

木曜日は第4学年の系統講義があれば講義に出席。
金曜日は1週目:外来手術、2週目:総括
クルスズあり。医局内勉強会にも積極的に参加のこと。

〈担当教員〉

教授 山本俊幸
准教授 大塚幹夫
講師 佐藤正隆
助教 加藤保信
助教 花見由華
助手 菊池信之

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (泌尿器科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	小島祥敬						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

5年次のBSL プライマリーコースで学習した基礎を発展させ、数名の受持ち症例の泌尿器疾患について、主治医とともに最新の診断・治療情報を収集し、医療の実践を学ぶ。

学習目標

一般目標(GIO)

受け持ち入院患者との良好な関係を構築しつつ、基本的臨床手技を修得し、診断・治療に至る臨床経過を理解する。

行動目標(SBO)

- 1 病歴と身体所見から、必要な検査をあげることができる。
- 2 泌尿器科レントゲン検査の介助ができる。
- 3 泌尿器科レントゲン検査の結果を説明できる。
- 4 静脈採血、血管確保ができる。
- 5 尿道カテーテルの挿入と抜去ができる。
- 6 縫合、抜糸、創の消毒やガーゼ交換ができる。
- 7 担当患者に関する文献をPubMed 及び医中誌で検索できる。
- 8 担当医と診断、治療について討議する。
- 9 泌尿器科手術を経験する。

テキスト

特に指定しない

参考書

標準泌尿器科学(医学書院)
ベッドサイド泌尿器科学(南江堂)
Campbell 's Urology(Saunders)

評価方法

実習の評価:出席日数等により総合的に判定

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

病棟はグループ診療体制を敷いており、学生は各グループへ1～2名配属される。朝8時30分の病棟カンファレンスルームでの朝会から始まり、各グループ主治医と行動をともにし学習する。また、担当教官が関連病院で手術がある場合、同伴し手術見学を行う。動物を使つてのロボット手術、腹腔鏡手術実習や関連病院での短期間の実習を行う(選択性)。

【担当教員一覧】

小島 祥敬 教授 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
相川 健 准 教授 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
石橋 啓 准 教授 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
柳田 知彦 講師 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
櫛田 信博 助教 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
羽賀 宣博 助教 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
小川総一郎 助教 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
片岡 政雄 助教 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
赤井畑秀則 助手 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
佐藤 雄一 助手 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
秦 淳也 助手 福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座
村上 房夫 臨床教授 太田西ノ内病院泌尿器科
深谷 保男 臨床教授 総合南東北病院泌尿器科
嘉村 康邦 臨床教授 四谷メディカルキューブ
高岩 正至 客員講師 米沢市立病院泌尿器科
村木 修 客員講師 公立藤田総合病院泌尿器科

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (耳鼻咽喉科学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	松塚 崇						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択	授業形態	実習

概要／方針等

病棟グループに属し、入院患者の診察を学習するとともに外来における新患、再来患者の診療見学、さらに関連病院において一般病院での耳鼻咽喉科診療を経験し、幅広い耳鼻咽喉科疾患診療の理解をめざす。

学習目標

- 一般目標(GIO)
耳鼻咽喉・頭頸部外科学領域の疾患の診断と治療を理解するとともに基本的臨床手技を修得する。
- 行動目標(SBO)
- 1 患者の訴えから疾患の鑑別に結びつく問診ができる。
 - 2 拡大耳鏡を正しく使用することができる。
 - 3 内視鏡(ファイバースコープ)を正しく使用することができる。
 - 4 額帯鏡を正しく使用することができる。
 - 5 聴力検査・音声機能検査の結果を説明できる。
 - 6 頭頸部の画像診断で主要な臓器を識別できる。
 - 7 指導医とともに手術に参加し、手術の基本手技を体験する。
 - 8 シミュレーターを用いた気管切開を経験する。
 - 9 症例報告のプレゼンテーションを行うことができる。

テキスト	下記参考書など
参考書	新耳鼻咽喉科学 切替一郎原著 野村恭也編著 南山堂 税別 ¥ 16,000 イラスト耳鼻咽喉科 森満 保著 光文堂 税別 ¥ 4,900 MINOR TEXTBOOK 耳鼻咽喉科学 久保 武他著 金芳堂 税別 ¥ 4,000 NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 喜多村 健、森山 寛編集 南江堂 税別 ¥ 6,500
評価方法	1. 6年次後期: 卒業試験として客観的試験 2. 評価は出席日数、実習態度、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	* モーニングカンファランスは8時20分から附属病院5階東病棟カンファランス室で開始します。 初日はモーニングカンファランスへ集合してください。 * 学生1名に対し担当医を1名決定し、man to man の指導を行います。 担当医は第1週月曜日のモーニングカンファランス時に紹介します。 * 関連病院実習は下記の3病院のうちのいずれかで1週間程度行います。 * 先端的医学研究(再生医療など)の見学・参加を受付けています。

授業計画／担当教員等

月曜日	午前 手術実習・病棟実習 午後 手術実習・病棟実習 ケースカンファランス 病棟カンファランス
火曜日	午前 外来実習・関連病院実習 午後 外来実習(腫瘍外来、鼻・副鼻腔外来) 抄読会
水曜日	午前 手術実習・外来実習(中耳外来) 午後 手術実習・外来実習(無呼吸外来)
木曜日	午前 外来診察(音声外来、難聴外来) 午後 総回診 外来カンファランス
金曜日	午前 手術実習・病棟実習 午後 手術実習・外来実習

小川 洋 教授 会津医療センター耳鼻咽喉科学講座
松塚 崇 准教授 耳鼻咽喉科学講座
多田 靖宏 講師 耳鼻咽喉科学講座
横山 秀二 講師 会津医療センター耳鼻咽喉科学講座
松井 隆道 講師 耳鼻咽喉科学講座
野本 幸男 講師 耳鼻咽喉科学講座
鈴木 政博 助手 耳鼻咽喉科学講座
野本 美香 助教 耳鼻咽喉科学講座
佐藤 聡 助教 耳鼻咽喉科学講座
谷 亜希子 助教 耳鼻咽喉科学講座
西條 聡 助手 医療人育成・支援センター

鹿野 真人 非常勤講師 大原綜合病院耳鼻咽喉科
高取 隆 客員講師 大原綜合病院耳鼻咽喉科
佐藤 和則 客員講師 太田西ノ内病院耳鼻咽喉科
山辺 習 客員講師 寿泉堂綜合病院耳鼻咽喉科
渡邊 睦 客員講師 むつみ脳神経耳鼻科クリニック
桑畑 直史 客員講師 まるべりー耳鼻科
西條 博之 客員講師 西條耳鼻咽喉科医院

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (神経精神医学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	矢部 博興						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

精神医学はことに精神面を対象とする医学の一部門である。したがって、他の医学の諸領域のように身体面を直接の対象にはしないが、ヒトの精神現象は身体の一部としての脳の機能の産物であり、精神医学には精神現象の基盤となる脳的・身体的な側面も取り扱うので、特に神経学の面を強調して神経精神医学と標榜している。この点が理解されるように授業を行う。また同時に、身体面を主に扱う医学の他の領域においても患者の精神面を重要視し、効果的に治療をすすめることができるようにする必要があることを強調し、精神医学と医学の他の領域のかけ橋であるリエゾン精神医学を身につけた医師を養成することを方針の一つとする。さらに精神現象はヒトが社会生活をする中で現れる現象であるから、精神現象の精神力動的・社会的な理解を学ぶことも重視する。それには精神保健・社会精神医学が含まれる。以上の方針から、神経精神医学で具体的には次のような専門分野の講義と実習を行う。すなわち、異常心理学、臨床精神医学、生物学的精神医学(遺伝学、精神薬理学、臨床神経生理学などを含む)、神経学(神経心理学、神経病理学などを含む)、児童青年期精神医学、老年期精神医学、心身医学などである。精神保健・社会精神医学を学ぶために、すがのクリニック、あさかホスピタルの見学実習も行う。

学習目標

一般目標(GIO)

心身医療科(精神科)領域の疾患の診断と治療に必要なスキルを身につけ、多様な治療場面におけるスキル活用の実際を体験的に学ぶ。

行動目標(SBO)

- (1) 入院患者1名を受け持ち、医療面接を行い精神症状を把握できる。
- (2) 外来初診患者のインテーク面接を行って、カルテを作成できる。
- (3) 聴取した患者の診療情報を適切に本診医にプレゼンテーションできる。
- (4) 心身医療科のデイケア治療場面に参加しレポートを作成できる。
- (5) 相馬市心のケアセンター「なごみ」のケアの実際に参加しレポートを作成できる。
- (6) あさかホスピタルの治療場面に参加しレポートを作成できる。
- (7) すがのクリニックのデイケアおよびワークコスモスの治療場面に参加しレポートを作成できる。

テキスト	上島国利、丹羽真一 大熊輝雄著 西丸四方ら カプラン デビソン、ニール	NEW 精神医学 現代臨床精神医学 改訂第9版 精神医学入門 臨床精神医学テキスト(井上、四宮監訳) 異常心理学(村瀬監訳)	南江堂 金原出版 南山堂 医学書院MYW 誠信書房
------	---	--	---------------------------------------

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 村上 仁、満田久敏、大橋博司監修、精神医学 医学書院 2. 新福尚武、島藺安雄編、精神医学書上・下 金原出版 1984 3. Mayer-Gross, Clinical Psychiatry, Cassell and Company Ltd, London. 1960 4. American Psychiatric Association, Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders (Fourth Edition-Revised), Washington, D. C., 1994 5. 大熊輝雄、臨床脳波学 改訂第5版 医学書院 1999 6. 平山恵造、臨床神経内科学 南山堂 1991 7. J. Laidlaw and A. Richens(皇中 坦、中川泰杉訳)、てんかん 西村書店 1992
-----	---

評価方法	卒業試験、スモールグループ実習、実習レポートおよび出欠状況を総合し評価する
------	---------------------------------------

その他(メッセージ等)	<p>学習上の参考事項</p> <p>スモールグループ実習では、特に毎朝9:00病棟での朝礼に遅刻しないように出席すること。この朝礼では病棟の患者の病態の申しおくり、前日の外来新患の紹介、病棟の回診が行われるので大切である。</p> <p>月曜の総回診は正当な理由なく欠席すると、卒業資格が得られない。また、月曜日午後5時からの抄読会・症例検討会にも全員出席することを原則としている。</p>
-------------	--

授業計画／担当教員等

--	--

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (放射線医学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	鈴木 義行						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等	
BSLアドバンスコースの実習は、放射線科の診療グループに配属するので、診療グループの一員として、患者に対する接し方を含めた診療全般についての知識、態度、習慣、技能を習得して欲しい。また、画像診断と放射線治療に関する論文を読み、発表する機会を設けているので、経験を積んで欲しい。更に、関連病院での実習も組み込まれているので、県内の放射線科診療の実情を学習する機会を設けている。	
学習目標	
<p>学習目標</p> <p>一般目標</p> <p>医療スタッフとともに、画像診断、放射線治療、などの診療行為に参加し、診療のために必要な、知識、態度、習慣、技能、を習得する。</p> <p>行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 診療グループに参加して、主治医とともに医療面接、身体診察を行い、必要な検査計画を立案する能力を身につける。 2 検査結果をまとめて、治療方針を考え、その結果を発表することができるような能力を習得する。 3 疾患に関する論文を読み、疾患に関する理解を深める能力を習得する。 4 放射線医学に関する診療を理解し、説明できる。 	
テキスト	放射線医学実習書 東北大学出版会 2001
参考書	
評価方法	<p>実習の最終週の午後に、15分程度の時間で症例の報告をしていただく。その内容を含めて総合的に評価する。</p> <p>放射線医学の最終評価について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 第4学年講義終了時の試験 (2) 第6学年の卒業試験 (3) BSL臨床実習時の成績 (4) 授業出席数、BSL出席数 <p>以上の結果について総合的に評価する。</p>
その他(メッセージ等)	医療スタッフの一員として実習を行うことになるので知識面のみでなく、患者に接する態度、技能などの習得も重要であることを認識して実習に臨んで欲しい。

授業計画／担当教員等	
<p>実習計画</p> <p>第1週: 診療グループの1人の患者を受け持ち、主治医とともに医療面接、身体診察を行い、必要な検査計画および治療計画を立案する。</p> <p>第2週: 検査計画に従い、患者とともに検査を見学し、一部では検査の補助的な役割を担う。また、希望に応じて、CT・MRI診断、放射線治療、核医学の3つの分野について、担当医の指導のもとに、ともに診療にあたる。</p> <p>第3週: 行った検査をまとめ、治療方針を決定する過程を主治医とともに経験する。その結果を科内のカンファランスにて発表する。</p> <p>第4週: 症例のまとめを作成し、発表する。</p> <p>4週間のうち、数日を関連病院での実習に当てる。</p> <p>担当教員一覧 6年生: BSL アドバンスコース</p> <p>教員氏名 職 所属 備考</p> <p>鈴木 義行 教授 放射線治療科</p>	

橋本 直人 講師 放射線科
佐藤 久志 助教 放射線治療科
長谷川 靖 助手 放射線科
石井 士朗 助手 放射線科
湯川 亜美 助手 放射線治療科
海老 潤子 助手 放射線治療科
嶋原 武志 助手 放射線科
宮嶋 正之 助手 放射線科
菊池 賢 助手 放射線科
中島 大 助手 放射線治療科
佐藤 友美 専攻医 放射線科
関野 啓史 専攻医 放射線科
黒岩 大地 専攻医 放射線科
竹川 鉦一 非常勤講師 総合南東北病院放射線科
森谷 浩史 客員講師 大原医療センター放射線科 臨床教授
今井 茂樹 客員講師 総合南東北病院放射線科 臨床教授
浦部 真平 客員講師 白河厚生総合病院放射線科 臨床教授
新野 恵司 客員講師 太田西ノ内病院放射線科
中川 学 客員講師 大原総合病院放射線科

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (放射線治療科)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	鈴木 義行						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

BSLアドバンスコースの実習は、放射線治療科の教官とともにがん患者さんの診療に参加し、がん患者さんに対する接し方から、がん病態の理解と治療法の選択、放射線治療の実際まで、医師としての度・言動から放射線腫瘍学全般に関する知識について習得していただきます。また、世界でも最先端の治療施設(ホウ素中性子捕捉療法、陽子線治療、など)を併設する総合南東北病院での実習も組み込んでおり、未来の放射線治療についても経験できるようにしています。

学習目標

<一般目標>

教官とともに放射線治療の診療行為に参加し、診療のために必要な知識や態度・等について習得する。

<行動目標>

- 1 がん患者・家族の心情を理解するように努める
- 2 放射線治療担当医とともに診療に参加し、必要な検査計画・治療計画を立案する
- 3 担当した疾患について、その病態を理解し、治療方針とその理由について説明する

テキスト

参考書	がん・放射線療法 2010 (篠原出版新社) 放射線治療計画ガイドライン 2012年版 (金原出版)
評価方法	実習の最終週に、症例報告をしていただく。その内容と、コース期間中の活動を総合的に検討し評価する。
その他(メッセージ等)	対象が"がん患者"なので、言動には注意してください。また、スタッフの一人として医療に参加していただきますので、社会人として恥ずかしくない身だしなみ・行動を心がけてください。

授業計画／担当教員等

<実習計画>

毎週1～2人の患者を受け持ち、放射線治療担当医とともに診察を行う。
初診の患者であれば、必要な検査計画および放射線治療計画を立案し、治療開始までの一連の準備を行う。
治療中の患者であれば、適宜、放射線治療による腫瘍・正常組織の反応について診察する。
最終週には、担当した患者のうち1～2名について、症例の治療経過とその疾患に対する治療法についてまとめ、発表する。
なお、2週間のうち数日間、総合南東北病院／南東北がん陽子線治療センターで実習を行う。

<担当教員>

鈴木 義行 教授 放射線治療科
田巻 倫明 准教授 放射線治療科
佐藤 久志 助教 放射線治療科
湯川 亜美 助手 放射線治療科
海老 潤子 助教 放射線治療科
中島 大 助手 放射線治療科

菊池 泰裕 臨床教授 総合南東北病院／南東北がん陽子線治療センター 科長／センター長
中村 達也 臨床教授 総合南東北病院／南東北がん陽子線治療センター 科長／副センター長
黒崎 弘正 非常勤講師 JCHO東京新宿メディカルセンター 放射線治療科 部長
齋藤 淳一 非常勤講師 群馬大学大学院医学系研究科 腫瘍放射線学／重粒子線医学研究センター 准教授
若月 優 非常勤講師 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 医長
吉田 大作 客員講師 佐久総合病院 佐久医療センター 放射線治療科 部長

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (麻酔科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Anesthesiology)						
担当責任者	村川 雅洋						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

5年次におけるプライマリーコースの基礎の上に、麻酔、集中治療、ペインクリニック、緩和医療のそれぞれの分野に特色のある下記の施設で実習を行い、実践的な知識、技能、態度を身につける。

実習施設(6施設の中から、希望によって3施設までを選択する。本学附属病院以外の施設は1週ずつとする。)

1. 本学附属病院／麻酔、集中治療、ペインクリニック、緩和医療
2. 大原総合病院／麻酔
3. 太田西ノ内病院／麻酔、集中治療
4. 総合南東北病院／麻酔、集中治療
5. 磐城共立病院／麻酔
6. 公立藤田病院／麻酔、ペインクリニック

学習目標

一般目標

手術侵襲や各種痛み疾患ならびに急性臓器機能不全に対応できる知識・技能を身につけるため、麻酔科診療・集中治療・緩和医療の現場を経験し、理解する。

行動目標

1. 吸入麻酔薬、静脈麻酔薬、筋弛緩薬の基本的な投与法を説明できる。
2. 気管挿管を経験する。
3. 硬膜外・脊髄くも膜下麻酔法の利点・欠点を説明できる。
4. 麻酔におけるチーム医療に参加する。
5. 術後鎮痛における硬膜外持続注入とオピオイドの持続静注法について説明できる。
6. 帯状疱疹、三叉神経痛の鑑別診断を列挙できる。
7. がん性痛に対する適切な鎮痛薬を選択できる。
8. 人工呼吸器の基本的な使用法を説明できる。
9. 患者の状態に合わせた輸液を選択できる。
10. 症例検討会に参加する。

テキスト

特に指定しない。

参考書

1. 「Basics of Anesthesia, 6th ed」(2011) eds. Miller RD & Pardo M. Saunders.
2. 「標準麻酔科学」第6版(2011)古家仁、稲田英一、後藤隆久編、医学書院
3. 「集中治療医学」(2001)日本集中治療医学会編、秀潤社
4. 「がん患者の訴える痛みの治療：緩和ケアにおけるTotal Painへの対応」(2001)山室誠編、真興交易医書出版部

評価方法

症例レポートの発表を行い、ポートフォリオ、出席・実習態度等を含め、総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

1. 麻酔・集中治療中の患者は常に生命の危機に瀕しているといっても過言ではない。また、術前・術後の診療及びペインクリニックにおいては、患者の精神的なケアも重要である。したがって、患者・家族に接する場合は、必ず担当教官の許可を得て、教官の指導のもとに実習を行う。
2. 患者および付き添い者への態度や言葉遣いには細心の注意を払う。
3. 主体的な思考に基づき知識・技術を取得することを目指す。
4. 医療スタッフとともに積極的にチーム医療に加わる。
5. 限られた期間内で経験できなかった病態、疾患については、自主的勉学を行い習得を目指す。
6. 通常、全集の金曜日に各自のローテーション予定を配布し、オリエンテーションを行う。

授業計画／担当教員等

本学附属病院

毎朝 7時55分～ 術後、集中治療症例報告、術前症例検討

8時45分～ 麻酔実習／黒澤 伸、五十洲 剛、他

集中治療実習／小原伸樹、他

ペインクリニック実習／小幡英章、他

緩和医療実習／佐藤 薫

大原綜合病院／田中 洋一

太田西ノ内病院／熊田 芳文

総合南東北病院／管 桂一

磐城共立病院／赤津 賢彦

公立藤田病院／丸 浩明

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(救急医学)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	島田 二郎						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

BSLアドバンスコースでは実際の初期救急処置の習得を目的とする。AHAの推奨するAdvanced Cardiac Life Support(ACLS)コースを導入し、緊急的循環管理、心停止患者に対する治療法をACLSコースのシミュレーションに基づき実習する。また、外傷患者に対して迅速かつ適切に対応できるようにJapan Advanced Trauma Evakuation and Care(JATEC)に準じたコースを導入し、終日の実習を行い習得する。さらに救命救急センターにおいて救急患者と直接接触しながら、臨床実習を行う。また、地域における救急医療体制やMedical Controlを理解する。さらに、講義および訓練等に参加し、我が国の災害医療体制(災害拠点病院、DMAT)について理解を深める。

学習目標

『救急概論・重症救急疾患』

一般目標(GIO)

救急患者への対応を理解し、緊急度の高い疾患の病態、診断および治療に習熟する。

行動目標(SBO)

- 1 救急患者の初期病態を判断できる。
- 2 救急患者の初期治療を介助できる。
- 3 救急患者の緊急度および重症度を説明できる。
- 4 外傷の処置を介助できる。
- 5 心停止患者に対し、リーダーとしてACLSを実施できる。
- 6 外傷患者に対し、リーダーとしてJATECを実施できる。
- 7 救急疾患に対し、超音波検査による緊急性の高い疾患の初期診断ができる。
- 8 救急医療体制(ドクターヘリを含む)Medical Controlを説明できる。
- 9 災害医療体制(災害拠点病院 DMAT)を理解し説明できる

テキスト

特に指定しない。

参考書

日本救急医学会監修:標準救急医学 医学書院
改定外傷初期診療ガイドライン へるす出版
AHA心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2010
DMAT標準テキスト 日本集団災害医学会

評価方法

実習の評価:出席日数、口頭試問含め、総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

学習上の留意事項

1. 学習者が主体的な思考に基づき知識・技術を習得することを原則とする。
2. ACLS、JATEC については自習により基礎知識を得、実習を通して迅速かつ適切な判断・治療能力を習得する。
3. 医療スタッフとともに積極的に治療チームに加わり、学習者として最大限現場体験を積むこと。
4. 夕方・夜間でも積極的に実習に参加し、臨床実習の成果をあげる。

授業計画/担当教員等

【担当教員】

伊関 憲(地域救急医療支援講座)
根本 千秋

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(病理学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced course						
担当責任者	橋本 優子、田崎 和洋						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

BSL プライマリーコースでは、病理検査業務の実習を通して病理診断学の重要性および診断のプロセスについて学ぶが、アドバンスコースでは、剖検例による臨床病理検討会(CPC)ならびに実地に即した数多くの症例検討を行うことにより、病理診断学の方法論についての理解を深めることを目的とする。

学習目標

一般目標(GIO)

剖検例を含む数多くの症例の病理学的検討を行い、最終的な病理診断や剖検の実際を理解する。

行動目標(SBO)

- 1 特殊染色法、免疫組織化学法、電子顕微鏡学的検索法の原理および意義を説明できる。
- 2 癌取り扱い規約に基づいた手術標本の所見の把握、簡単な切り出しを行うことができる。
- 3 生検ならびに手術標本の組織学的所見を列記し、病理診断書を作成することができる。
- 4 手術材料の肉眼所見、組織学的所見をもとに、癌取り扱い規約に即した記載ができる。
- 5 病理解剖に介助者として参加する。
- 6 剖検所見の把握ならびに病態や死因についての考察ができる。
- 7 学外実習に積極的に参加する。
- 8 基幹病院の現場における病理診断の実際とその役割を説明できる。
- 9 臨床病理学的事項をまとめ、文献的資料をもとに患者の病態を総合的に考察・説明することができる。

テキスト

参考書

評価方法

出席日数、学習態度および発表等を含め総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

1. 電子カルテ、生検および剖検から知り得た患者の情報は守秘する義務がある。
2. 問題解決型学習を目標としているので、主体的な思考と積極的な学習態度が必要である。

授業計画／担当教員等

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(輸血・移植免疫学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Blood Transfusion and Transplantation Immunology						
担当責任者	大戸 斉						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等	
臨床医学としての輸血医学、移植免疫学の役割を理解して、深い洞察に基づく科学的医療理論を養う。	
学習目標	
<p>一般目標 (GIO)</p> <p>Understand technical and clinical decision-making aspects of blood transfusion and transplantation immunology.</p> <p>輸血や移植治療の適応やこれに伴う免疫学のおよび臨床工学的側面を理解する。</p>	
<p>行動目標 (SBO)</p> <p>(1) Emulate medical staff caring for autologous blood donors. 自己血ドナーの血液採取の介助ができる。</p> <p>(2) Properly use equipment and supplies related to blood collection and testing. 採血と検査に必要な器材を正しく扱うことができる。</p> <p>(3) Explain the cause, detection, and consideration given to unexpected antibodies. 不規則抗体の産生要因、検出法や輸血・妊娠において考慮すべき事項を説明できる。</p> <p>(4) Describe serologic and genetic testing in regard to organ transplantation. 臓器移植に関する血清学的、遺伝子学的組織適合性検査を説明できる。</p> <p>(5) Explain the technology of apheresis blood component collection. 成分採血法(アフエレーシス)について説明できる。</p> <p>(6) Describe how to collect and handle hematopoietic progenitor cells. 造血幹細胞の採取法とその取扱いについて説明できる。</p> <p>(7) Specify why, if, and how blood transfusion alternatives can be used. 輸血代替療法の適応と方法を述べるができる。</p> <p>(8) Read and understand an English-language journal article, and present it to department members in their journal club meeting. 英文の専門雑誌を読み、秒読会で発表できる。</p>	
テキスト	特に指定しない。
参考書	輸血学(改訂第3版)(中外医学社) 遠山博、大戸斉編著 よくわかる輸血学(改訂版)(羊土社) 大久保光夫、前田平生
評価方法	受講の態度、レポートなどにより総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	<p>学習上の留意事項</p> <p>1. 科学的思考、証拠と論理性を基本とした学習法を身につける。</p> <p>2. 自主的な学習態度により、未知なこと、理解できないことは放置せず、質問や文献検索で解決する。</p>

授業計画／担当教員等	
<p>授業計画</p> <p>第1週 月・火曜日 〔自己血採血と説明・見学〕 水・木・金曜日 〔患者とドナーからの検査採血の実際・アフエレーシス操作見学・造血細胞処理見学〕</p> <p>第2週 月・火・水曜日 〔患者とドナーからの検査採血の実際・アフエレーシスキット装着、操作・造血細胞処理見学、造血幹細胞アッセイ・自己血採血の実際〕 木・金曜日 〔HLAタイピング、ゲノタイピング・HPAタイピング〕</p>	
担当教官	

大戸、Nollet、池田、鈴木

キーワード

自己血、検査、アフエレーシス、採血

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(感染制御部)【医学6】						
(英語名称)	Infection Control						
担当責任者	金光敬二						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習・講義

概要/方針等

学習目標

- 一般目標(GIO)
- ・ 感染制御学と臨床検査医学の実用的な知識を習得する。
- 行動目標(SBOs)
- ・ 尿検査(尿定性、尿渣)の実際について説明できる。
 - ・ 血液検査の実際について説明できる。
 - ・ 微生物検査(グラム染色)の実際について説明できる。
 - ・ 生理検査の実際について説明できる。
 - ・ 種々の感染症の予防について説明できる。
 - ・ 抗菌薬適正使用の概念について説明できる。

テキスト

参考書

評価方法

その他(メッセージ等)

授業計画/担当教員等

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (検査部)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced course (Clinical Laboratory Medicine)						
担当責任者	志村 浩己						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

臨床検査医学プライマリーコースおよび5年次一年間の他診療科・部の実習を踏まえ、医療における臨床検査の位置づけを再確認する。アドバンスコースでは実際の患者検体をより多く観察することに重点を置き、結果を判定する知識を深め、さらに単一の検査のみならず複数の検査結果を統合して病態を判断する能力を養うことを目標とする。また、学生自身が生理検査の被検者への検査を体験することや、静脈採血の注意点を理解することにより、日常的な検査について患者に配慮した説明・実施へ生かす。

学習目標

【一般目標】

臨床検査における生体検査や検体採取を安全に行う方法を理解するとともに、得られた異常所見をもとに他の臨床検査結果も参照して疾患の診断、病態を判断する能力を修得する。

【行動目標】

- 1 静脈採血時に注意すべき合併症を列挙できる
- 2 採血に適切な血管を選択し静脈採血を実施できる
- 3 採血管の種類とその特徴を説明できる
- 4 尿検査の異常所見から疾患や病態を推測できる
- 5 血液塗抹標本の異常所見から疾患や病態を推測できる
- 6 各微生物学検査を利用して検出菌を同定し、病因菌に対する治療薬選択に関係づけることができる
- 7 実際の患者に対して心電図検査を実施できる
- 8 生理検査を利用して動脈硬化を評価できる

テキスト	特に指定しない
参考書	標準臨床検査医学 医学書院 臨床検査法提要 金原出版株式会社 臨床検査ガイド 文光堂 異常値の出るメカニズム 医学書院 Reversed C.P.C.による臨床検査データ 読み方トレーニング 日本医事新報社 臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学 医歯薬出版株式会社
評価方法	出席日数、学習態度、レポートなどにより総合的に評価する。
その他(メッセージ等)	

授業計画／担当教員等

【実習計画】

- (月) 午前 臨床検査総論、採血講義
午後 採血実技、生理機能検査実習(呼吸機能検査・心電図・CAVI)
- (火) 午前 ホルター心電図装着実習、心電図検査実技(患者様への検査実施)
午後 尿定性:尿沈渣・異常所見検体の検鏡とデータ解説、ウイルス性肝炎・アレルギー検査講義
- (水) 午前 自習(レポート作成)
午後 末梢血・骨髄標本作製、血液疾患患者の血液像および骨髄像鏡顕、グラム陰性桿菌微生物検査
- (木) 午前 微生物検査結果判定
午後 レポート提出、課題発表、ディスカッション

【担当教員】

志村 浩己、伊藤 祐子

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (歯科口腔外科学)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course(Dentistry and oral surgery)						
担当責任者	長谷川博,菅野寿,金子哲治,佐久間知子						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	講義・実習

概要／方針等

5年次のプライマリーコースを基礎にして追加、発展させる。歯科口腔外科の外来患者、入院患者の診療の見学・介助により実践面の知識、技術を経験・修得し、口腔疾患に興味を持って対応できるようにする。

学習目標

- 一般目標(GIO)
顎口腔ならびに隣接組織における疾患の診断と治療法について理解する。
- 行動目標(SBO)
- ① 学生同士で実習を行い、顎口腔の診察法、頸部の触診を習得する。
 - ② 頭頸部領域の画像読影ができる。
 - ③ 外来診察の見学や、小手術の介助を体験する。
 - ④ 歯科的な治療法を説明できる。
 - ⑤ 手術見学により口腔外科を経験し、手術内容を説明できる。
 - ⑥ 口腔ケアを実施できる。
 - ⑦ 顎模型実習により、顎骨骨折の整復法、顎間固定法を習得できる。

テキスト

参考書

評価方法 授業の評価は平常点、レポート、試験その他の方法により総合的に判定される。

その他(メッセージ等)
学習上の留意事項
1. 歯科口腔外科は、1週間コースで履修する。
2. 9時歯科口腔外科医局集合(時間厳守)。

授業計画／担当教員等

- 月曜日 オリエンテーション
講義 1、口腔、頭頸部解剖
2、画像診断
3、口腔粘膜疾患、腫瘍
4、口腔ケア理論 など
実習 外来手術見学
- 火曜日
講義 1、歯牙解剖
2、口腔、歯牙の診察法
3、歯科一般、歯性感染症など
実習 外来手術見学
- 水曜日
講義 1、咀嚼嚥下の生理
2、画像診断 など
実習 外来手術見学
- 木曜日 大原総合病院 口腔外科手術見学
- 金曜日 手術見学
講義 1、先天疾患 口唇口蓋裂
2、顎変形症
3、口腔疾患の全身への影響 など
学生実習
歯科用レントゲンの撮影法と読影

印象採得と石膏模型製作
歯周検査 口腔ケア実際、スケーリング

長谷川博准教授 歯科口腔外科部長
菅野寿 助手 歯科口腔外科
佐久間知子助教 歯科口腔外科

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (地域医療コース:保原中央クリニック【医学6】)						
(英語名称)							
担当責任者	高澤 奈緒美、葛西 龍樹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

地域・家庭医療学講座の最初の拠点として、2008年に当クリニックに家庭医療科が設立された。地域と連携した医療を展開し、外来診療・訪問診療を中心に医療を提供している。

実習は外来診療・訪問診療ともに地域の第一線で患者に接してもらうことを念頭に置いている。地域包括支援センターや訪問看護ステーションの見学も可能である。

* 地域・家庭医療学講座で養成する専門医(世界では general practitioner, family physicians, family doctor と呼ばれます)は、新専門医制度では「総合診療専門医」と呼ばれます。

学習目標

一般目標

「家庭医療」の専門性がどのように地域で活用され、医療を提供しているのかを理解し、実際に患者・地域に応用することができる。

行動目標

- 1 プライマリ・ケアの現場で、「頻度の高い疾患」「見逃してはいけない疾患」を考えて問診・身体診察を行うことができる。
- 2 患者の「か・き・か・え」を意識して問診することができる。
- 3 訪問診療に同行し、その患者について簡単にプレゼンテーションができる。
- 4 指導・実習内容について、振り返りながら学びを深め、指導医にも改善点をフィードバックすることができる。

テキスト	マクウィニー家庭医療学(ばーそん書房)
参考書	「スタンダード家庭医療マニュアルー理論から実践まで」葛西龍樹編 永井書店
評価方法	実習に対する姿勢・態度から指導医が評価する
その他(メッセージ等)	移動時の事故には最大限注意する。 地域の第一線の医療を提供していることから、これまでの実習生でも上気道炎などの罹患が多く、体調管理に留意する。

授業計画／担当教員等

【授業内容】

オリエンテーション、外来での問診・身体診察、訪問診療、地域包括支援センターでの実習、訪問看護ステーションでの実習

【実習担当医師】

高澤 奈緒美／家庭医療科／保原中央クリニック

菅家 智史／助教／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

北村 俊晴／助手／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

葛西 龍樹／教授／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (地域医療コース:ほし横塚クリニック)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	星 吾朗、葛西 龍樹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

ほし横塚クリニックは、H25年4月から、公益財団法人 星総合病院が管理運営するクリニックです。都市部である郡山駅近くに位置し、市内の急性期病院と連携してかかりつけ医としての役割を果たしています。また、訪問看護ステーションと地域包括支援センターが併設されており、在宅医療を中心に地域の介護福祉関連ネットワークも充実しています。
 * 地域・家庭医療学講座で養成する専門医(世界では general practitioner, family physicians, family doctor と呼ばれます)は、新専門医制度では「総合診療専門医」と呼ばれます。

学習目標

一般目標

「家庭医療」の地域における役割と、地域における医療・福祉の問題点について理解する。

行動目標

- 1 患者のillness(病気)の体験を探ることができる。
- 2 鑑別診断を考えて適切な病歴と身体診察ができる。
- 3 病気の体験、病歴、身体診察から適切な診断と治療方針を述べることができる。
- 4 診断と治療方針について患者に説明することができる。
- 5 疑問解決のために情報収集と批判的吟味ができる。
- 6 訪問診療に同行し、患者・家族の背景と問題点を述べるができる。
- 7 実習地域にある、介護保険制度におけるサービスについて述べるができる。
- 8 地域の医療・福祉の問題点を指摘できる。
- 9 振り返りシートを用いて実習を振り返ることができる。

テキスト	マクウィニー家庭医療学(ばーそん書房)
参考書	スタンダード家庭医療マニュアルー理論から実践までー(葛西龍樹編 永井書店)
評価方法	振り返りシートによる評価
その他(メッセージ等)	移動時の事故に注意してください。 自身の健康管理に留意してください。 当院の規則を遵守してください。

授業計画／担当教員等

【授業内容】

オリエンテーション、外来実習、地域・家庭医療学講座のTVカンファ、訪問看護見学、介護福祉施設見学、訪問診療実習

【担当教員一覧】

星 吾朗／ほし横塚クリニック医師／福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座
 葛西 龍樹／教授／福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(地域医療コース:かしま病院)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	石井 敦、葛西 龍樹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

かしま病院は、1983年「地域医療の中核となる医療機関を」との声から、地域開業医十数名が結束して立ち上げた、まさに地域のための医療機関です。

法人理念である「地域医療と全人的医療の実践」及びキャッチフレーズの「やさしさと安心の医療」を目指し、地域のための医療機関として予防・診断・治療・リハビリ・在宅医療・福祉の質の向上に職員一丸となって努力しています。

本コースの臨床実習を通して地域医療・福祉の現場を体験し、その役割と重要性・問題点を学び、今後の臨床に役立てていただきたいと思えます。

* 地域・家庭医療学講座で養成する専門医(世界では general practitioner, family physicians, family doctor と呼ばれます)は、新専門医制度では「総合診療専門医」と呼ばれます。

学習目標

一般目標

ホームステイ型研修を体験することにより、地域医療と地域生活に関する知識と理解を深め、将来の医師活動に役立てる。

行動目標

- 1 いわき市の地域風土について述べる事が出来る。
- 2 いわき市の地域医療の現状について述べる事が出来る。
- 3 地域医療の役割と重要性及び問題点を述べる事が出来る。
- 4 医療面接を通し、患者の主訴だけでなく、心理・社会的な問題点を抽出する事が出来る。
- 5 訪問診療・訪問看護・特別養護老人ホーム実習を通し、家族・介護者の問題点を考える。

テキスト	マクウィニー家庭医療学(ばーそん書房)
参考書	「家庭医療」ライフメディコム 2002年 葛西龍樹著
評価方法	平常点、レポート、試験、その他の方法で評価される。
その他(メッセージ等)	ようこそ「フラガール」発祥の地へ！

授業計画／担当教員等

【授業内容】

外来実習／医療面接を中心とした外来診療
 病棟実習／一般病棟・快復期リハビリ病棟管理
 訪問診療／地域に出かける診療
 訪問看護／地域に出かける看護
 特別養護老人ホーム実習／「かしま荘」で働く
 観光／いわき市を観光する

【担当教員一覧】

石井 敦／総合診療科 科長／かしま病院 医師
 中山 大／副院長／かしま病院 医師
 石井 俊一／外科部長／かしま病院 医師
 佐野 久美子／院長／クリニックかしま
 葛西 龍樹／教授／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (地域医療コース:喜多方市地域・家庭医療センター)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	武田 仁、葛西 龍樹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

喜多方市 地域・家庭医療センターは人口50953人(平成25年1月1日現在)の中心部にある無床診療所であり、平成21年度の福島県地域医療再生計画に基づいて、福島県立喜多方病院閉院後の外来患者の受け皿として機能するとともに、地域のニーズに合わせた医療サービスを展開するべく整備された医療機関である。また、地域医療の実践と同時に家庭医の育成及び臨床教育の拠点として位置づけられており、開設された初年度(平成23年度)から医学部生の実習を受け入れている実績があります。

喜多方市内の住民宅でホームステイを行い、地域の風土を感じながら実習を行っていく方針である。

* 地域・家庭医療学講座で養成する専門医(世界では general practitioner, family physicians, family doctor と呼ばれます)は、新専門医制度では「総合診療専門医」と呼ばれます。

学習目標

一般目標

この実習における一般目標は2つあげられる。1つ目は、地域の無床診療所で学生自身が主体的に職場の中で役割を持つことで地域医療の実際を知ることである。2つ目は、家庭医の地域医療における役割や家庭医のコアコンピテンシーについて学ぶことである。

行動目標

- 1 毎日の記録(ポートフォリオ)をつけ、評価とフィードバックを受ける
 - 2 家庭医の外来診療を積極的に見学する
 - 3 全ての世代の外来患者と良好なコミュニケーションをとれるようになる
 - 4 外来実習で患者中心の医療の方法を意識した問診を行えるようになる
 - 5 訪問診療に同行し、見学したケースについて主治医とディスカッションを行う
 - 6 2週間の最後に学習したことをスライドで発表する
- (テーマや方法などについては指導教官と相談し決定する)

テキスト	マクウィニー家庭医療学(ぱーそん書房)
参考書	「スタンダード家庭医療マニュアル-理論から実践まで」葛西龍樹編 永井書店
評価方法	On-the-Job Trainingや発表での観察記録が主体となる
その他(メッセージ等)	希望に合わせて実習内容や個別に目標設定を行います 事故などに注意してください

授業計画／担当教員等

【授業内容】

ある実習生の一週間のスケジュール

(月) 午前－外来見学、午後－訪問診療・外来見学・TV会議(16時頃)

(火) 午前－外来実習、午後－乳幼児健診見学・外来実習

(水) 午前－外来実習、午後－自由学習

(木) 午前－外来実習、午後－訪問診療・外来実習

(金) 午前－外来実習、午後－乳幼児健診見学・訪問診療・TV会議(16時頃)

※希望により、実習内容や日程などフレキシブルに対応します。

朝開始時刻 朝礼 8:20分までにはセンターで待機
終了時刻 指導教官との振り返りが終了し次第 おおよそ(6時30分～7時頃)

【実習担当医師】

武田 仁／喜多方市 地域・家庭医療センター センター長
菅家 智史／助教／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座
葛西 龍樹／教授／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (地域医療コース:南相馬市立総合病院【医学6】)						
(英語名称)							
担当責任者	根本 剛、長島 克弘、小鷹昌明、神戸敏行、金澤幸夫						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

1.慢性化した被災医療を考える

南相馬市立総合病院は昭和6年に原町実費診療所として始まり、福島県の相双地域の地域医療を支えてきた。平成23年3月11日の東日本大震災、それに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故のため、同院は多大な負担を強いられ、多くの南相馬市民は避難を余儀なくされた。7万1千人の南相馬市の人口は一時期1万人弱に減少したが、平成28年1月現在は5万2千人まで回復している。震災による変化として震災前は65歳以上が人口全体の25%であったが、震災後は33%と急速に高齢化が進んでいる。また、震災前は屋外で活動していた住民が仮設住宅、借り上げ住宅へ移動後室外活動をしなくなり糖尿病・高血圧・高脂血症の悪化がみられている。また避難者、避難しなかった人たちにも震災後の慢性的ストレスのため、うつ・アルコール依存が多くみられている。

相双地域で実習することで、慢性期を迎えた被災医療が実際どのように行われているか体験し、自分たちなりに改善していく方法を考える機会を提供したい。

2. 将来迎える超高齢化社会の医療を考える

震災・原発事故が契機となり、南相馬地域では医師含め医療関係者が流出している。とりわけ看護師の流失は多く、看護師が定数に満たないため南相馬のすべての病院が震災前と同数の入院患者を受け入れることができなくなっている。人的不足が顕著になっている状況で、地域に根ざした医療機関として南相馬市立総合病院の果たすべき役割は大きい。現状では十分に担うことは難しい。南相馬にみられる超高齢化と医療資源の不足は、見方を変えれば将来の日本社会そのものである。南相馬の状況を改善する方策は、日本が将来迎える超高齢化社会を解決する糸口になりうる。南相馬での実習で、将来の日本が迎える超高齢化社会の医療を考える契機として欲しい。

3.被ばく医療を考える

福島第一原発事故による被ばくに対し、当院では平成23年7月から市民に対し内部被ばく検査をしている。また、ガラスバジによる外部被ばく量を合わせても健康に影響を及ぼすほどの被ばく量になっていないことが最近になって分かってきた。しかし、それでも健康被害を心配している住民も多い。住民にデータを提示しながら、住民の放射線に対する考え、対応を尊重し、生活への助言も行っている。慢性被ばくへの対応は科学的根拠を示すことも必要だが、傾聴など全人格的な対応も重要なことを知ってほしい。

学習目標

地域を理解するため原町区内にホームステイし、当院を含め他の医療福祉施設で地域医療の実習を行う。

一般目標

- 慢性期を迎える被災医療が実際どのように行われているか体験し、改善していく方法を考える。
- 南相馬の病院医療・在宅・高齢者福祉がいかなる状況か把握する。可能であれば、日本が将来迎える超高齢化社会に起こる問題を考え、解決するための方法を考える。
- 福島第一原発事故後の被ばくによって引き起こされた社会不安を持つ福島県民に寄り添う心を持つ。

行動目標

- 在宅医療に関わる人たちの仕事を理解する。
- 大学病院と地方病院の入院患者の違いを述べることができる。
- 低線量被曝に関連した知識を身につける。
- 地域の人々と積極的に関わり合い、できる範囲で彼らを理解する。
- あいさつ、時間厳守など社会人としての規範を守る。

テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法	実習の中で行動や知識取得をみて、評価する。
その他(メッセージ等)	移動時の事故には十分注意してください。 健康管理に注意してください。 分からないこと、実習で悩んでいることがあったら何でも相談してください。 社会常識、社会規範を守ってください。

授業計画／担当教員等

【授業内容】

往診、仮設での住民との会合、WBCによる内部被ばく検査、訪問看護師に同行、ケアマネジャーに同行、“こころのケアセンターなごみ”に同行、救急車同乗し救命救急士に同行、地域・家庭医療学講座のテレビカンファレンス、指定された講義の参加、その他のオプション

【実習担当医師】

根本 剛／在宅診療科長・内科医／南相馬市立総合病院

長島 克弘／内科医／南相馬市立総合病院

小鷹 昌明／神経内科長／南相馬市立総合病院

神戸 敏行／呼吸器科長／南相馬市立総合病院

金澤 幸夫／院長／南相馬市立総合病院

その他

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (地域医療コース: 只見町国保朝日診療所)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	若山 隆、葛西 龍樹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

只見町国保朝日診療所は、人口約5,000人の只見町において唯一の医療機関である。地域住民に最も近い医療機関であり、分野を問わず幅広い健康問題が朝日診療所へ持ち込まれる。また、地域住民の生活を支えるため、医療機関内にとどまらず保健・福祉・介護・行政と連携した活動を実践している。

只見町国保朝日診療所での実習を通して、幅広い健康問題に対応するための医療面接・診察技術はもちろんのこと、地域社会から見た医療機関の役割、医師に求められる役割を学ぶ機会を提供する。

* 地域・家庭医療学講座で養成する専門医(世界では general practitioner, family physicians, family doctor と呼ばれます)は、新専門医制度では「総合診療専門医」と呼ばれます。

学習目標

一般目標

地域社会で役割を果たせる医師となるために、小規模医療機関で医師に求められる役割を理解し、基本的診療技術、地域住民と接する医師としての態度を習得する。

行動目標

- 1 地域住民が医療機関に求める役割を説明できる。
- 2 初診患者の診療において、心理社会的背景にも配慮した医療面接を実施できる。
- 3 医療面接内容から、複数の鑑別診断を列挙できる。
- 4 列挙した鑑別診断から、必要な身体診察項目を選択して実施できる。
- 5 医師が医療機関外で果たす役割を、例を挙げて説明できる。
- 6 高齢者介護における医師の役割、介護支援専門員(ケアマネージャー)の役割について説明できる。

テキスト	マクウィニー家庭医療学(ばーそん書房)
参考書	医療大転換ー日本のプライマリ・ケア革命ー(ちくま新書)
評価方法	実習担当医師の観察評価、実習終了時のプレゼンテーションで評価する
その他(メッセージ等)	公共交通機関が少ないため、自家用車以外での移動の場合は、地域・家庭医療学講座へ事前に連絡してください。

授業計画／担当教員等

【授業内容】

外来実習／初診患者の医療面接を中心とし、担当医師とともに診療を行う

訪問診療同行／担当医師とともに訪問診療に同行する

老人保健施設見学／併設する老人保健施設 こぶし苑の見学を行う

特別養護老人ホーム見学／近隣の特別養護老人ホームの見学を行う

訪問看護同行／訪問看護に同行し、サービスの特性を学ぶ

介護支援専門員(ケアマネージャー)同行／介護保険サービスで重要な役割を果たすケアマネージャーの業務に同行する

ホームステイ／地域の住民宅にホームステイし、地域住民から見た医療機関の役割、医師への期待を学ぶ

【実習担当医師】

若山 隆／只見町国保朝日診療所所長／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

葛西 龍樹／教授／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (地域医療コース:大原総合病院)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	川井 巧、葛西 龍樹						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

大原総合病院は福島市の中心街に位置する、福島市の中核病院の一つです。

本実習では学生は指導医・後期研修医・初期研修医とともに総合診療科の一員として医療に参画し、内科・外科・小児科全ての救急初期対応及び成人の病棟診療を中心に実習してもらいます。実習を通じて、大学病院とは違う総合病院の役割及び総合診療科の特性を実感し、将来どの科を専門としても共通に必要な救急対応や感染症診療について主に学んでもらいます。

* 地域・家庭医療学講座で養成する専門医(世界では general practitioner, family physicians, family doctor と呼ばれます)は、新専門医制度では「総合診療専門医」と呼ばれます。

学習目標

一般目標

市中病院での総合診療の役割と重要性を説明できる。

行動目標

1. 総合診療科チームの一員として適切に行動できる。
2. 大原総合病院での総合診療科の役割を説明できる。
3. 入院担当患者さんについて1分間で的確にプレゼンできる。
4. 入院担当患者さんは病歴だけでなく心理・社会面も含め誰よりも詳しく説明することができる。

テキスト	マクウィニー家庭医療学(ばーそん書房)
参考書	総合診療・感染症科マニュアル(医学書院) 診察エッセンシャルズ 新訂版(日経メディカル開発) ジェネラリストのための内科診断リファレンス(医学書院)
評価方法	実習での態度、レポートなどから総合的に評価する
その他(メッセージ等)	見学するだけでなく積極的に自分で考えて発言し、実際の診療に参加することを強く期待します。いい意味で間違いが許される期間は残り少ないです。間違えた発言でも絶対に怒りませんので、どんどん発言して食らいついてください。

授業計画／担当教員等

授業内容

- 救急診療実習／内科・外科・小児科全ての救急車対応
- 病棟診療実習／総合診療科の入院患者診療
- 外来診療実習／総合診療科の外来患者診療

担当教員一覧

- 川井 巧／内科(総合診療科)部長／大原総合病院 医師
- 葛西龍樹／教授／福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスドコース(会津医療センター 内科総合)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course(Aizu Medical Center)						
担当責任者	鈴木 啓二						
開講年次	6年	開講学期	通年	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生までの講義で学んだ知識を生かし、臨床実習(BSLプライマリーコース)での経験をさらに発展させ、実臨床で役立つスキルの習得を目指します。 ・ 入院患者を常に1～3症例担当し、診療チームの一員として診療に携わり、プライマリ・ケアに必要な基本的な医療面接・身体診察・診断推論・プレゼンテーション能力を習得します。 ・ プライマリ・ケアに必須のクルズスを通じ、実臨床に重要な知識の整理と定着を図ります。 ・ 総合内科・循環器内科・感染症呼吸器内科・糖尿病代謝腎臓内科から選択(複数選択可)して、外来診療を経験し、プライマリ・ケアに必要な初期対応・外来でのマネージメントについて学習します。 ・ 入院・外来患者を通じて問題点を抽出し、指導医とともに問題点を解決する方法を学ぶとともに、自身でも解決するスキルの習得を目指します。 ・ 漢方内科アドバンスド・コースを同時に選択することも可能です(その場合は必ず4週間コースになります)。

学習目標
<p>[一般目標]:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プライマリ・ケアに必要な基本的な医療面接・身体診察・診断推論・プレゼンテーション能力について学習する。 ・ 採血(静脈、毛細血管)などの基本手技を指導医の指導の下に行い、基本手技習得に努める。 ・ 実施可能な医行為(超音波検査や穿刺、血管造影検査の介助など)の手技を経験する。 ・ 希望する専門外来(複数選択可)を見学し、実際の外来診療について学ぶ。 ・ 計画されたクルズスに出席し、より実践的な知識を習得する。 <p>[行動目標]:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 担当患者を毎日診察し、良好な人間関係を築き、必要な情報を聴取できる。 (2) 基本的なバイタルサインの測定とその解釈ができる。 (3) 基本的な身体診察とその解釈ができる。 (4) 基本的な実技を指導医の指導の下でできる。 (5) 患者指導・啓発を行えるようになる。 (6) 医療面接と身体診察の情報をSOAP形式で正しく診療録に記載することができる。 (7) 医師だけでなく、他職種スタッフとコミュニケーションをとることができる。 (8) 担当症例の問題点を抽出し、エビデンスに基づいて指導医とともにその問題点を解決できる。 (9) 担当症例についての病態生理・診断法・治療法を理解し説明できる。 (10) 担当症例について適切なプレゼンテーション・レポート作成ができる。 (11) 実習を通じてより深く知りたいと考えたテーマについて詳細な学習を行い、レポートを作成する。

テキスト	特に指定しない。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかりやすい内科学」(文光堂) ・「内科学」(朝倉書店) ・「カラー版 内科学」(西村書店) ・「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) ・「診察と手技が見える」(MEDIC MEDIA) ・「ワシントンマニュアル」(MEDSI) ・「UpToDate」 ・「やさしい呼吸器教室」(日本医事新報社) ・「やさしい胸部画像教室」(日本医事新報社) ・「感染症まるごとこの一冊」(南山堂)
評価方法	実習に取り組む態度、症例についてのプレゼンテーション・レポート提出等により総合的に評価を行います。また学生側から指導医の評価も行います。
その他(メッセージ等)	2-4週間、会津医療センターでのBSLを楽しんでください。積極的にチーム医療の一員として、診療にかかわってください。

授業計画/担当教員等

<臨床実習計画>

- ・ 第一週月曜日午前中にオリエンテーションを行います。
- ・ 実習は病棟での実習を基本とします。
- ・ 希望する専門外来見学(複数選択可)を随時午前中に行います。
- ・ クルズスを午後3時頃より1時間程度(随時)予定します。
予定のクルズス(例)
「神経学的診察法」、「輸液の基礎」、「血液ガスの読み方」
「急性冠症候群への初期対応」、「心電図セミナー」、「インスリンの使い方」
「胸部X線の読影」、「抗生剤と感染症」、など
- ・ 以下の検査介助・見学・手技が可能です。
循環器内科血管造影検査:月曜日終日
グラム染色実習
- ・ 第2・4週木曜日、患者プレゼンテーションおよびレポート報告を行います。

* 4. 勉強会の開催について(参加は自由)

- ① 心電図セミナー(毎朝8:00~8:30)
- ② ER勉強会(月曜日18:00~)
- ③ 総合内科勉強会(木曜日17:30~)
- ④ 週末カンファレンス(金曜日18:00~)
- ⑤ 糖尿病・代謝・腎臓内科カンファレンス(木曜日 14:30~)
- ⑥ NSTラウンド(水曜日 13:30~)
- ⑦ 感染症抗菌剤カンファレンス(第2・4火曜日 17:00~17:30)
- ⑧ お宝画像カンファレンス(木曜日 16:30~17:30)
- ⑨ 病理カンファレンス(金曜日 15:00~17:00)
- ⑩ 心エコー読影会(水曜日 18:00~)

担当教員等:

- 鈴木 啓二 / 教授(総合内科)
鶴谷 善夫 / 教授(循環器内科)
塚本 和久 / 教授(糖尿病・代謝・腎臓内科)
新妻 一直 / 教授(感染症・呼吸器内科)
宗像 源之 / 講師(総合内科)

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスドコース (会津医療センター 漢方内科)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Kampo medicine)						
担当責任者	三瀨 忠道						
開講年次	6年	開講学期	通年	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

漢方(湯液あるいは鍼灸)の診療を希望する患者さんと診療の実際に接し、受診患者さんの医学的・社会的背景、漢方医学の効能と医療における必要性を認識し、具体的な診察手技や治療手段(生薬、方剤、鍼灸施術)を経験する。

入院患者を主治医(指導医)とともに担当し、漢方医学的な診察、診断(証)、治療の方法を体験的に学び、漢方医学理論の理解を深める。個々の患者や変化する病態に対応した、湯液(漢方薬)あるいは鍼灸による漢方臨床の実際を経験し、漢方治療の運用方法を知る。現代医学的な診断や病態把握を並行して行い、現代医学的視点からも漢方の臨床効果を評価する。入院患者カンファレンスや病棟回診時における受け持ち患者のプレゼンテーション、内科カンファレンスへの参加を通し、病態を東西両面から把握するトレーニングを行う。

多数の症例を経験するために外来診療にも陪席し、診察実技を習得すると共に種々の疾患や漢方医学的診断(証)を経験し、治療の速効性なども確認する。湯液診療の基本となる生薬の調剤、院内製剤の調整などにも参加する。

学習目標

[一般目標]:漢方医学的な診察手技の修得、診断(証)決定の方法、治療の実際(湯液と鍼灸)と効果を体験するとともに、漢方医学的な思想や医学理論を体得し、初歩的な技能を身に付ける。

[行動目標]:

- (1) 担当患者には朝夕接し、信頼関係の構築が出来る。
- (2) 基本的な四診(望診、聞診、問診、切診)を実施できる。
- (3) 脈診、舌診、腹診を実施でき、代表的な所見とその経時的変化を観察できる。
- (4) 担当患者に処方された方剤や実施された鍼灸手技について、漢方医学的な適応や使用目標、臨床的意義を説明できる
- (5) 証の陰陽、虚実、寒熱、表裏、六病位、気血水の病態について説明できる。
- (6) 漢方方剤の基本的な運用方法を理解できる。
- (7) 基礎的な鍼灸手技を実施できる。
- (8) 主要な複数の漢方方剤について、漢方医学的な適応を述べられる。
- (9) 担当患者について担当期間の病態変化を漢方医学と西洋医学の両面から説明できる。

テキスト	はじめての漢方診療ノート(医学書院)
参考書	はじめての漢方診療十五話(医学書院) 学生のための漢方医学テキスト(日本東洋医学会) 経絡・ツボの教科書(新星出版社) 図解 鍼灸臨床手技マニュアル(医歯薬出版社) 『漢方210処方 生薬解説』じほう
評価方法	担当患者主治医(指導医)による診療の様子の評価、回診及び症例カンファレンスにおける発表、診療技能の習熟度、提出レポートなどを総合して評価する。
その他(メッセージ等)	実習上の留意事項 (1) 患者が自分の身内であったならどう対応してほしいかを常に念頭に置き、服装や態度に留意すること。 (2) 始業前と後には受け持ち患者に面接し、体調変化の有無を確認すること。 (3) 脈診、舌診、腹診を含めて毎日診察(四診)すること。 (4) 主訴や主診断の経過はもちろん、すべての愁訴についてその経過や現状を確認し、患者の全身状態の把握に努めること。特に初回には健康調査票も用いて詳細に患者の全体を把握すること。 (5) 患者のプライバシー保護については十分に留意し、ベッドサイドでの問診には注意を払い、廊下など公共の場所における患者に関する会話などは慎むこと。

授業計画／担当教員等

<臨床実習計画>

原則として、病棟実習を優先する。
時間があれば、午前中は外来診療に陪席、午後は指導医に随行。

(1日の予定)

7:45-8:15 古典輪読会

8:15-8:45 病棟回診

8:45- 病棟実習

時間に応じて外来診療に陪席(2週間ごとにおけるおよその予定回数)

午前 湯液外来実習(2回+病棟実習の空き時間1-2回)

鍼灸診療実習(2回+病棟実習の空き時間1-2回)

生薬調剤実習(2回 佐橋)

午後 院内製剤(丸薬)実習(2回 佐橋)

鍼灸病棟診療(2回)

(週間予定)

月曜日 (第一週8:30 オリエンテーション 指導医紹介)

14:30 総回診

15:15 5年次BSL湯液セミナー参加(第一週のみ)

16:30 病棟カンファレンス

火曜日 16:00 5年次BSL鍼灸セミナー参加(第一週のみ)

(第2火曜日19:00 会津漢方診療談話会=自由参加)

水曜日

木曜日 (第4木曜日19:00 郡山漢方勉強会=自由参加)

金曜日 第一週15:00 一週間の振り返り(指導医)

第二週14:00 担当症例報告(レポート) 終了後担当患者にあいさつ

担当教員等:

三猪 忠道 / 教授

鈴木 朋子 / 准教授

鈴木 雅雄 / 准教授

坪 敏仁 / 准教授

佐橋 佳郎 / 助手

古田 大河 / 助手

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(会津医療センター 上部消化管・胆膵内視鏡コース)【医学6】						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Endoscopy for Upper GI and Pancreatobiliary)						
担当責任者	入澤 篤志						
開講年次	6年	開講学期	通年	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

本コースは、上部消化管および胆膵内視鏡診療に特化したコースです。消化器内視鏡診療に実際に携わる経験を通して、実践に則した消化器病学／消化器内視鏡学を学ぶことを目的としています。

現在の消化器病診療において、消化器内視鏡による診断と治療は非常に大きなウエートを占めています。しかし、教科書でいくら勉強しても、実際の手技に深く関わらなければ疾患の理解に難渋することも多いと思います。このコースでは、上部消化管疾患および胆膵疾患に関する様々な内視鏡診療に直接的に関わり、実臨床における多くの内視鏡診療を体験することから、対象疾患の病態と治療の理解をより確かなものにして頂きたいと考えます。また、本コースでは消化器診療の基本的検査である腹部超音波検査についても、実臨床においてしっかりと学べるカリキュラムも組み入れていますので、内視鏡による体内からのアプローチ、および超音波による体外からのアプローチを組み合わせることで、より幅広い消化器診療・消化器内視鏡診療を学ぶことができます。

本コースの履修は、学生時代のみならず初期研修医になってからも大きなアドバンテージになるものと確信しています。

学習目標

〔一般目標〕:

- (1) 上部消化管疾患と胆膵疾患に関する内視鏡診療を学ぶ。
- (2) 超音波検査を通して消化器病診療の基本を学ぶ。

〔行動目標〕:

- (1) モデルを用いて上部消化管内視鏡検査の基本を習得する。
- (2) 実臨床における上部消化管内視鏡検査の現場に携わりながら、上部消化管内視鏡読影の基本を習得する。
- (3) 実臨床における上部消化管疾患に対する内視鏡治療の介助を体験する。
- (4) 実臨床における胆膵内視鏡関連手技の介助を体験しながら、胆膵内視鏡関連画像(内視鏡像、超音波内視鏡像、透視像)読影の基本を習得する。また、診断治療の流れを理解する。
- (5) 実臨床における腹部超音波検査を体験し、消化器画像診断の基本を学ぶ。
- (6) 緊急内視鏡治療にも立ち会い、救急医療に於ける内視鏡診療を学ぶ。

テキスト	「消化器内視鏡プロフェッショナルの技」(日本メディカルセンター) →実際には、履修期間中は貸し出しをしますので、用意をする必要はありません。
参考書	同上
評価方法	
その他(メッセージ等)	<p>本コースにおける実習・学習のポイント・到達目標は以下の通りです</p> <p>(1)実際に消化器内視鏡および腹部超音波機器を操作し、実臨床現場での診療に携わっていただくことで、消化器疾患の理解を深めます。</p> <p>(2)実際の検査(内視鏡・超音波)で得られた画像について、その読み方をしっかりと学び、確実な診断ができるようになります。</p> <p>(3)内視鏡診断および治療の介助に携わることで、上部消化管・胆膵疾患の診断から治療に至るまでの基本的な診療体系を学びます。</p> <p>(4)上部消化管・胆膵疾患の新患外来実習(問診・診察等)を行うことで、消化器診療における内視鏡・超音波検査の役割を学びます。</p> <p>* なお、本コース履修にあたって、基本的には予習は必要ありません。実臨床の場で直接的に内視鏡診療や超音波診療に携わることで、「絶対に忘れない知識」をリアルタイムに得られることが本コースの特徴と言えます。</p> <p>* 履修期間中に開催される、消化器内視鏡関連学会・研究会には出席できるようサポートいたします。</p>

授業計画／担当教員等

下記は大体の予定内容・時間となりますが、状況に応じて変更があります。

[月曜日]

8:00 胆膵疾患画像勉強会
8:30 入院症例カンファランス
9:00 消化器内視鏡実習(実臨床)
18:00 入院症例カンファランス

[火曜日]

8:00 消化器内科・外科合同カンファランス
8:30 入院症例カンファランス
9:00 消化器内視鏡実習(実臨床、モデル)
18:00 入院症例カンファランス

[水曜日]

8:30 入院症例カンファランス
9:00 腹部超音波実習(実臨床)
18:00 入院症例カンファランス
19:00 消化器内科勉強会

[木曜日]

8:00 上部消化管内視鏡読影会
8:30 入院症例カンファランス
9:00 消化器内視鏡実習(実臨床、モデル)
17:30 内科合同カンファランス
18:00 入院症例カンファランス

[金曜日]

8:30 入院症例カンファランス
9:00 消化器新患外来実習、消化器内視鏡実習(実臨床)

担当教員等

入澤 篤志 / 教授
渋川 悟朗 / 准教授

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (会津医療センター 外科)【医学6】						
(英語名称)							
担当責任者	斎藤 拓朗						
開講年次	6年	開講学期	通年	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

会津医療センターの外科では地域医療、チーム医療、緩和医療、漢方医療の外科領域への導入など最前線の外科医療について学び、さらに将来self learningによる自己研鑽をするための具体的な方法を身につける。このような目的を達成するために、入院および外来患者を主治医とともに担当することにより、手術、処置、診断などの基本的な手技、および術前術後管理に参加するとともに、緩和医療に触れる機会を設ける。期間中には地域医療、チーム医療についての理解を深め、また臨床上の疑問を明らかにして最新の医療情報にアクセスする方法を習得するため、モーニング・カンファランス、手術症例検討会、NSTラウンド、緩和ケアチームラウンド、漢方勉強会および多職種ミーティングなどへ積極的に参加し、また各種セミナーを受講、抄読会での発表を行う。日々のカンファランスでは、症例のプレゼンテーション能力を身につける。ここでは、担当患者の臨床経過や診断・治療の要点を理解しているかどうかを評価する。さらに、診療スタッフあるいは患者さんとのコミュニケーション能力を身につけることも重視している。

学習目標

〔一般目標〕:

地域医療、チーム医療、緩和医療など最前線の外科医療について学び、さらに将来self learningによる自己研鑽をするための具体的な方法について学ぶ。

〔行動目標〕:

- (1) 担当患者を毎日診察し良好なコミュニケーションの下に必要な情報を聴取できる。
- (2) 診療スタッフとコミュニケーションをとりつつ、担当患者の身体診察および家族・地域における役割などの情報を記録としてまとめ、発表することができる。
- (3) 各種カンファランスに参加し、臨床上の疑問を明らかにし、それに対する最新の診療に関するエビデンス (EBM) を検索し、担当患者に適応できる。
- (4) 診療に関するエビデンスを検索する方法を習得する。
- (5) 手術に第二助手として参加する
- (6) 手術における外科生理・解剖について説明できる。
- (7) ベッドサイドあるいは外来における小外科あるいは処置について理解し説明できる。
- (8) 縫合、結紮など基本的な外科手技についてドライラボあるいはウエットラボで実習する(皮膚、消化管の縫合と吻合)
- (9) チーム医療について理解するために、他職種の診療スタッフとのミーティングに参加し、コミュニケーションをとる。
- (10) 緩和医療について理解するために実際に患者さんと接するとともにセミナーに参加する。
- (11) 2週目の抄読会で文献あるいは症例の発表を行う。

テキスト	イヤーノート 内科・外科編
参考書	Digestive surgery now メディカルビュー社 標準外科学 医学書院 各種診療ガイドライン
評価方法	診療の様子の評価、担当患者レポート発表会でのプレゼンテーション、および2週目の抄読会における文献あるいは症例の発表等により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	1.外科と小腸大腸肛門科は共同で教育・診療体制を構築しており、カンファランス、抄読会等を合同で行い、またセミナーも分担している。 2.指導医の下に患者さんの状態に応じて真摯に診療にあたること。 3.担当患者の治療方針、病名の告知に関しては主治医に予め状況をきいてから対応すること。 4.月曜日が祝日の際には火曜日朝8:30に集合すること。 5.時間厳守で行動すること。 6.病棟用上履きを用意し、手洗いに努めるなど院内感染防止を意識すること。 7.ドライラボ、ウエットラボでの楽しい実習を準備しています。

授業計画／担当教員等

<臨床実習計画>

【第1週】

【月曜日】 8:30 オリエンテーション、症例のまとめ方(斎藤・添田) / 9:30 外来・病棟・手術(斎藤・添田・押部) / 16:00 病棟回

診(斎藤・添田・押部) /17:00 1日の振り返り(斎藤、添田)

[火曜日] 8:00 漢方勉強会 / 8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 (斎藤・添田・押部) / 16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り

[水曜日] 8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド / 15:00 緩和ケアラウンド / 16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り 18:00 合同抄読会

[木曜日] 8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 緩和ケア往診 / 13:30 多職種カンファランス / 14:00 手術症例検討会 /16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り 18:00 セミナー

[金曜日] 8:00 漢方勉強会 / 8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド / 15:00 緩和ケアラウンド /16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り

【第2週】

[月曜日] 8:30 オリエンテーション、症例のまとめ方(斎藤、添田) / 9:30 外来・病棟・手術 (斎藤・添田・押部) / 16:00 病棟回診(斎藤・添田・押部) /17:00 1日の振り返り(斎藤、添田・押部)

[火曜日] 8:00 漢方勉強会 / 8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 (斎藤・竹重・添田) / 16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り 18:00 セミナー

[水曜日] 8:00 大腸内視鏡カンファランス / 8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド / 15:00 緩和ケアラウンド /16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り 18:00 合同抄読会(学生発表)

[木曜日]8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 緩和ケア往診 / 13:30 多職種カンファランス / 14:00 手術症例検討会 /16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り 18:00 セミナー

[金曜日]8:30 モーニング・カンファランス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド /16:00 病棟回診 /17:00 1日の振り返り

担当教員等:

斎藤拓朗 / 教授

竹重俊幸 / 准教授

添田暢俊 / 講師

押部郁朗 / 助教

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース:公立藤田総合病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Fujita General Hospital)						
担当責任者	近藤 祐一郎						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

当院はベッド数311床の中規模病院です。24名いる指導医の多くは大学病院で助手教員以上を経験しており、教育に熱心な医師がたくさんいます。電子カルテ・オーダーリング・画像ファイリングが完備しており、救急医療体制が充実しています。さらに研修医が研修に集中出来るように環境を整備しています。プライマリ・ケアを体験し実際に学んでいただく予定です。国保直診の病院として活動しており、国が推進している、地域包括ケアに積極的に取り組んでいます。

学習目標

【一般目標】

この実習を地域住民が医師にどのような診療を期待しているのか考える機会とし、医師として患者さんに対する正しい診療態度を身につける。

病院における医師の役割を十分に理解し、学習の動機づけをする。

【行動目標】

1. 毎日の記録をつけ、評価とフィードバックを受ける。
2. 地域包括医療の実際を見学し、体験する。
3. 医師として患者さんに対する正しい診療態度を身につける。
4. 倫理的診断と治療ができるようにする。

テキスト	特に指定はありません
参考書	図書室に準備してあります
評価方法	レポート提出により総合的に判定する
その他(メッセージ等)	希望に合わせて実習内容や個別に目標設定を行います

授業計画/担当教員等

【授業内容】

基本は午前－外来実習、午後－入院実習・訪問診療・施設診察見学・外来見学

主な内容

内視鏡治療や検査

腎臓病や糖尿病の診察、検査、身体所見の取り方

内科の基本的な診療(一般内科、消化器内科、腎臓内科)

地域医療(特に地域包括ケア)の現状と将来像

救急医療(一次～二次救急を中心に、現場での見学実習)

外来化学療法の実際を見学する

見学希望等あれば、フレキシブルに対応。

朝開始時刻 朝礼 8:20分までには医局で待機

終了時刻 17時～18時頃

【実習担当医師】

近藤 祐一郎/公立藤田総合病院 副院長

各科指導医

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース:大原綜合病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course(Ohara General Hospital)						
担当責任者	石橋 敏幸						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

大原綜合病院は創立124年の歴史をもち福島県東北地区の基幹病院として地域医療に貢献しています。学術的には、1925年に大原八郎先生が野兔病を発見しそのことは世界的にも知られ、現在の病院理念“人を愛し、病を究める”にその精神は一貫して反映されています。そして、臨床研修病院として充実した研修内容に定評があり、県内外の地域医療を担っている多くの若手医療人を輩出している実績があります。特に強調したいことは、地域医療の将来を見据えて教育・人材育成を病院の中心軸におき、若いメディカルスタッフを大切にしている環境を備えています。実際の各科の診療内容は熱い指導医が皆さんを待ち、さらに最新の医療機器を駆使したチーム医療が展開されています。また、当院研修医がNHK番組ドクターGには3年連続で出演します。6年生の要望に120%応えることのできる臨床直結の実習・教育を提供します。

学習目標

【一般目標】

本コースにおける目標を3点とする。
 1点目は、救急医療の診察に救急専門医、総合診療医、各科専門医、研修医とともにあたり、地域救急医療の現場を学ぶことである。
 2点目は外来・入院患者さんの診療を担当医、研修医とともにあたり、チーム医療の実際を経験し、地域医療の主役者として臨床の実際を学ぶことである。
 3点目は救急蘇生の実際を確実に習得し、救急蘇生医療の主体者になることである。

【行動目標】

1. 救急患者さんのバイタルサインをとり診察にあたる。
2. 救急外来での診断へのアプローチを学ぶ。
3. 一次救命処置(BLS)を確実に習得する。
4. 外来の診療にあたり、問診、診察の実際を経験し、診断に至る診察、検査等のアプローチを学ぶ。
5. 入院患者さんの診療にあたり、病態の変化を把握できるようにする。
6. 入院患者さんの治療方針を担当医とともにディスカッションし、他職種とのチーム医療の実際を経験する。
7. 院内カンファレンスに参加しEBMに基づいた診断、治療さらに予防について学ぶ。
8. 2週間のまとめを発表する。

テキスト	特に指定はありません。
参考書	
評価方法	外来・救急外来の診察や入院患者診療におけるディスカッションや発表を評価する。
その他(メッセージ等)	希望に合わせて実習内容を設定します。 できるだけ公共交通機関をご利用ください。 自家用車を使用する際は、病院指定第2駐車場をご使用ください。 院内用上履きを持参する。昼食券は準備します。

授業計画/担当教員等

【授業内容】

- (月) 朝 - 研修医とともにカンファレンス、午前 - 救急外来・外来診察 午後 - 病棟実習・休憩、ター救急外来診療
 (火) 午前 - 救急・外来診察、午後 - 病棟実習 ターカンファレンス
 (水) 午前 - 救急・外来診察、午後 - 病棟実習・カンファレンス 症例検討 ター画像診断カンファレンス
 (木) 午前 - 救急・外来診察、午後 - 病棟実習 症例検討 ターレクチャー
 (金) 午前 - 救急・外来診察、午後 - 病棟実習・カンファレンス
 * 希望により、実習内容や日程などフレキシブルに対応します。

初日は8時に旧研修医室に集合

翌日からの朝開始時間 8時30分 旧研修医室

(月)は夕方から午後10時まで救急外来実習があるため午後に休憩をとり、(火)の朝開始時刻は9時からとする。

終了時刻 指導教官との振り返りが終了し次第 おおよそ午後5時30分~6時頃

初日に一次救命処置(BLS)を学ぶ。

【実習担当医師】

石橋 敏幸/大原綜合病院 副院長

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (協力病院コース:医療生協わたり病院)						
(英語名称)							
担当責任者	渡部 朋幸						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

福島医療生協組合員と地域の皆様の「安心して誰もがかけられる病院」をつくる運動により、1975年10月に42床で開設しました。1977年には、2病棟88床。1981年に3病棟168床となり、現在の4病棟196床、内科・消化器科・循環器科・呼吸器科・外科・産婦人科・小児科・リハビリテーション科・病理科などを備える病院となりました。

地域の第一線医療機関として、救急の患者様の積極的な受け入れとともに、開放型病院として、開業医の先生との共同診療の実施、在宅療養患者様の支援にも取り組んでおります。

「一人は万人のために、万人は一人のために」の医療生協の精神をもとに、組合員・地域住民のすべてのいのちを大切に、支え合う医療の実践をめざしております。

学習目標

【一般目標】

- (1) 患者様の問題点を的確に捉えられる基本的、総合的な診療能力を身につける。
- (2) 患者さんの立場に立ったチーム医療を実践する能力を身につける。
- (3) 医療の社会性と医師の社会的な役割を自覚し、健康や暮らしを守る立場からよりよい医療を追求する視点を身につける。

【行動目標】

1. 毎日の記録(ポートフォリオ)をつけ、指導医とチェックとふり返しを行うことができる。
 2. 内科疾患の患者さんを受け持ち、毎日の病歴聴取、基本的身体診察を行い情報を収集できる。
 3. 基本的なバイタルサインの測定とその解釈ができる。
 3. 評価と治療計画(検査・治療など)を立案、文献考察し、診療録記載を行うことができる。
 4. カンファランスに参加をし、受け持ち患者さんのプレゼンを指導医および他職種向けに行うことができる。
 5. 往診に同行し、見学したケースについて感想をまとめることができる。
 6. 2週間の最後に学習したことをまとめ、スライドを用いて発表し、ふり返ることができる。
- (テーマや方法などについては指導教官と相談し決定する)

テキスト	特に指定はありません
参考書	「内科学」(朝倉書店) year note(メディックメディア)等
評価方法	ポートフォリオ、態度評価、研修のまとめ発表をもとに、形成的・総括的評価を行う。
その他(メッセージ等)	この福島で地域住民の健康を守るため、最前線で共に診療を行って頂ける動機付けのある皆さん、その目でしっかりと経験をして下さい。お待ちしております！

授業計画/担当教員等

【授業内容】

一週間のスケジュール例

- (月) 午前-オリエンテーション(スケジュール説明、院内案内、電カルオリエン等)、病棟 / 午後-病棟・受け持ち患者紹介
(火) 午前-新入院カンファ・病棟・救急車対応 / 午後-病棟・救急車対応・心電図カンファ
(水) 午前-新入院カンファ・病棟・救急車対応・他職種カンファ / 午後-病棟・研修医カンファ見学・全科メディカルカンファ
(木) 午前-新入院カンファ・在宅往診 / 午後-病棟・救急車対応、臨床倫理カンファ
(金) 午前-英文抄読会※・新入院カンファ・病棟・救急車対応・神経所見の取り方 / 午後-病棟・腹部エコーレクチャー
※The NEW ENGLAND JOURNAL of MEDICINE 等

朝開始時刻 朝礼は8:30から

終了時刻 指導教官との振り返りが終了し次第 おおよそ(6時30分~7時頃)

【担当医師】※各診療科の代表者のみ記載

渡部朋幸/副院長(内科・循環器内科)

遠藤剛/院長(緩和ケア内科)

佐藤武(内科・リハビリテーション科・循環器科)

渡辺秀紀(消化器内科)

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース:福島赤十字病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course(Fukushima Red Cross Hospital)						
担当責任者	鈴木恭一						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

福島赤十字病院は、福島県北医療圏の中核病院として地域医療・救急医療に貢献しています。救急患者数と救急車取扱件数はいずれも県北地区最多であり、患者疾患分類をみても、多種多様な疾患に対応しています。こうしたプライマリ・ケアの研修に恵まれた環境を持つ当院において、臨床研修教育は、果たすべき重要な責務であると考えています。平成27年度は16名(1年次7名、2年次8名)の初期臨床研修医を受け入れています。学生実習や当直見学も数多く受け入れています。

BSLアドバンスコースでは、多種多様な症例を実際に担当し、これまで学び習得した知識を確認するとともに更に深めて下さい。また、医学生の臨床実習において許容される基本的医行為は、指導医が安全と確認しえる範囲で積極的に経験して貰います。幸い当院には多くの初期臨床研修医がいます。彼ら彼女らの後ろに張り付いて、少しでも有意義な実習になるよう努力して下さい。

学習目標

【一般目標】

プライマリ・ケアの基本的な診療能力(態度・技能・知識)の獲得を目指します。多彩で数多くの症例を通して、これまで学んだ知識を確認し昇華させてください。また、多職種の職員との協力なしには適切な医療を行い得ません。医療人としての人格形成を目指して下さい。

【行動目標】

1. 当院初期臨床研修医の後ろに張り付いて、日常診療を見学し吸収する。
2. 救急搬送症例を積極的に見学する
3. 医師のみならず、看護師・検査技師など多職種の職員とコミュニケーションをとる
4. 許容される基本的医行為を安全に遂行する
5. 経験した症例に関して、研修医・指導医とディスカッションを行う
6. 初期臨床研修医対象の研修会に参加し(義務ではありません)、知識・技能を高める
7. 2週間の最後に、症例発表(興味を持った症例に関して5分程度)を行う

テキスト	特に指定はありません
参考書	特に指定はありません
評価方法	実習態度、指導医や研修医とのディスカッションなどにより総合的に評価します。
その他(メッセージ等)	研修する診療科は、希望に配慮しますが、事情により異なる診療科でも研修となる可能性があります。実習の目標は指導医が判断して個別に立てますが、希望する目標があれば考慮します。積極的で柔軟性のある研修姿勢を期待しています。

授業計画/担当教員等

【授業内容】

実習前に、希望する診療科の有無など確認します。
 第1週月曜の午前中にオリエンテーションを行います。
 病棟実習が主体ですが、各種の検査には見学として入ります。
 以下の研修会やカンファランスへの参加が可能です。義務ではありません。
 * 内科カンファランス(毎週月曜17:00~) * 循環器カンファランス(随時)、
 * 神経内科・脳外科カンファランス(第2・4月曜18:00~)
 * 研修医系統研修会(第1・3土曜日8:00~9:30)
 実習内容や日程など、希望があれば可能な範囲で対応します。

【実習担当医師】

実習内容に応じて、当院の臨床研修指導医が担当します。
 臨床研修プログラム責任者:鈴木恭一

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース (協力病院コース:北福島医療センター)						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Northern Fukushima Medical Center)						
担当責任者	木村 秀夫						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修／選択	選択必修	授業形態	実習

概要／方針等

当院はベッド数226床の地域医療支援病院で伊達市および福島市北部の地域医療を担っています。地元に着したプライマリケアを提供する一方、血液疾患、消化器疾患、乳腺疾患センターにおいては高い専門性で地域医療を支えています。これらの科においてがん化学療法にも力を入れています。また切らないがん治療ともいえる放射線治療トモセラピーをはじめ高度な医療機器を整備し地域医療に貢献しています。また急性期治療を終えた患者さんが在宅生活にスムーズに移行できるようリハビリを行う回復期リハビリ病棟と、在宅復帰支援を目的とした地域包括ケア病棟も備えております。実習では、地域医療の実態をみて勉強して頂きたいと思っております。

学習目標

【一般目標】

一般病院の地域医療における役割を理解し、医師としての知識、医療人としての心構え、態度を身に着ける。また医療を行ってゆくにあたり必要不可欠なチーム医療を理解する。

【行動目標】

救急あるいは入院患者について、問診、診察、バイタルサインをとり診察にあたる。診断へのアプローチを学ぶ。病態、病状の変化を把握できるようにする。治療方針を担当医と共にディスカッションして治療を進める。

テキスト

特に指定はありません。

参考書

各科に専門書等を所蔵(図書室あり)

評価方法

外来から入院患者診察における実習を通じて、医学的知識、医療人としての心構え・態度、レポート等により総合的に判定

その他(メッセージ等)

授業計画／担当教員等

【授業計画】

午前8時30分から原則的に午後5時まで。

臨床実習は基本的に2班に分かれ(4人程度の場合、2人ずつが適切と考えます)、その時々トピック的な講義などの際は全員対象といたします。

【主な内容】

病棟実習が主ですが、検査、手術には見学として入ります。

外来は、救急外来および各科(希望の科があれば受けます)外来

午前:外来実習・検査・病棟

午後:検査・病棟・手術見学・講義など

【当院で可能な内容】

急患から紹介患者の基本的な診察

地域医療(一次救急、家庭医療科、当院附属の老健施設の見学等)

回復期病棟にてリハビリの実験を体験する

血液疾患患者の診断と治療、骨髄穿刺、骨髄生検などの検査、消化器疾患の診断と治療、内視鏡検査、肝生検など

乳腺疾患(乳がん)の診断と治療

手術見学

がん化学療法室の実験を見学

【実習担当指導医】

院長 木村秀夫(内科・血液内科)

各科責任医師

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース:福島第一病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Fukushima Daiichi Hospital)						
担当責任者	副院長 土屋 敦雄						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

福島第一病院は福島市の第一線医療機関として地域医療・救急医療に積極的に取り組んでおります。現在内科、循環器科、外科、心臓血管外科、整形外科、歯科の診療科目があり、地域の方々に役に立つ医療を目指しております。指導医は少ないのですが、プライマリ・ケアを体験し、実際に医療を学んでいただきたいと考えております。

学習目標

【一般目標】

大学病院ではなかなか経験できない医療を学んでもらう。基本的にはプライマリ・ケアの実際について学んでもらう。

【行動目標】

1. 一般外来診療に立ち会い、日常診療を見学・実習する。
2. 救急搬送症例を積極的に見学する。
3. 医療に携わる検査技師、看護師等co-medicalスタッフとの交流を図り、チーム医療の円滑な運営の実際を学んでもらう。
4. 実際に手洗いをして手術に入ってもらおう。
5. 当直業務を体験してもらい、救急医療の現場に立ち会う。
6. 最後に指導医とのディスカッションをする。
7. 老健施設等の見学

テキスト	特にありません。
参考書	特にありません。
評価方法	レポート、ディスカッションにより総合的に評価する。
その他(メッセージ等)	ある程度は希望にあわせて実習も可能です。 自家用車のための駐車場あり。 昼食は職員食堂にて利用可。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

第一週の午前中にオリエンテーションを行う。
基本的には午前・・・外来実習、午後・・・手術見学、訪問診療、外来実習

主な内容

- ・救急外来診療
- ・内視鏡検査
- ・内科の基本的な診療
- ・外科・整形外科・心臓血管外科の外来診療
- ・手術見学および手洗い
- ・救急医療(1,2次救急を中心に、現場での見学)
- ・透析患者の見学

【実習担当指導医】

土屋 敦雄/副院長(外科)

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース:総合南東北病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course(Southern TOHOKU General Hospital)						
担当責任者	佐久間 秀夫						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

総合南東北病院は、福島県中地区の中核病院として、「すべては患者さんのために」の理念のもと、地域医療・救急医療に貢献しております。外来患者・救急患者・検査・手術症例数が県内トップクラスであり、情熱を持った医師・指導医が多数在籍しております。当院の特徴として各科の垣根が低く、コメディカルとのコミュニケーションも良好であり、病院全体の雰囲気は最高です。そのため研修医にとって非常に恵まれた環境であり、平成27年度は19名(1年次11名、2年次8名)の初期臨床研修医を受け入れており、生き生きとした目で診療にあたっております。

当院のBSLアドバンスコースでは、そんな研修医・指導医の先生と一緒に様々な臨床の現場を経験してもらいます。熱意と積極性を持った学生さんをお待ちしております！

学習目標

【一般目標】

市中病院で行われている地域医療・チーム医療の現場を、各科の指導医・研修医とコメディカル共に体験する。

【行動目標】

1. 当院初期研修医と一緒に、積極的に診療・検査・手術見学をする。
2. 2週間、様々な科を見学する事で、幅広い知識を習得する。
3. BSLを通じて、院内のコメディカルと積極的にコミュニケーションを取り、チーム医療を体験する。

テキスト	特にありません。
参考書	特にありません。
評価方法	実習態度、レポート提出、指導医や研修医のディスカッションなどにより総合的に評価します。
その他(メッセージ等)	院内に無料宿舎がございます。研修中の食事を無料提供します。実習前に希望されるかどうか確認いたします。 研修する診療科は、希望に配慮しますが、事情により異なる診療科でも研修となる可能性があります。是非、当院のBSLで実りのある経験をしてください。お待ちしております。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

学生さんからの希望と、その時ローテートで回っている研修医がいる科を考慮し、実習内容を決定します。

主な内容

- 基本的な診察見学(外科・内科)
- 手術見学(外科)
- 検査見学(消化器内科・循環器内科)

朝開始時刻 7:30(各科院内回診・カンファレンス等)

終了時刻 17:30~18:00

水・金 全体カンファレンス(7:55~)

実習内容や日程など希望があれば可能な範囲で対応します。

臨床研修プログラム責任者:佐久間 秀夫

【実習担当指導医】

実習内容に応じて、当院の臨床研修指導医が担当します。

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース:白河厚生総合病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course(Shirakawa Kosei General Hospital)						
担当責任者	東 光久						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等	
主治医として医療チームの一員として、患者診療に携わることを通じて、講義やこれまでのBSLで学んだ知識をより深めるとともに、病歴聴取、身体診察、診断推論、EBM、コミュニケーションスキル、意思決定支援、プレゼンテーションスキルなどを包括的かつ体系的に学ぶことができる。	
学習目標	
【一般目標】 これからの医師として必須の主治医力、チーム医療におけるリーダーシップを理解し実践する。	
【行動目標】 一歩進んだ病歴聴取、身体診察、診断推論ができる。 医療スタッフと協力して、真のEBMを実践する。 患者・家族との温かな交流を通じて、患者に『寄り添う』姿勢を身につける。	
テキスト	なし
参考書	なし
評価方法	1週目で形成的評価を行い、2週目最終日に主治医として担当した患者のプレゼンテーションを通じて総括的評価を行う。
その他(メッセージ等)	白河厚生総合病院に昨年新設された総合診療科スタッフを中心に職員全体で総力を挙げて指導します。体力的にきついかもかもしれませんが、患者さんや医療スタッフと主体的に関わって、ぜひ臨床のやりがいを体感してください！

授業計画/担当教員等	
【授業計画】 毎日:カンファレンス・回診(7:30~9:30、16:00~17:00) 火曜:リハビリテーションカンファレンス(タカンファレンス時間内) 水曜(隔週):放射線科合同画像カンファレンス(朝カンファレンス時間内)、救急症例検討会(17:30~18:30) 木曜:臨床研究カンファレンス/文献抄読会(朝カンファレンス時間内)、病棟多職種カンファレンス(13:30~14:00) 金曜:プレゼンテーションカンファレンス(朝カンファレンス時間内)	
※指導医の監督下で医師記録を記載し、検査オーダーできるようにします(実習生には当院の電子カルテにアクセスするためのID、パスワードを発行します)。	
※週1日以上、総合診療科外来で初診患者の診療をします。指導医とディスカッションしながら、診断・治療計画を立案します。	
※週1日以上、救急搬送患者を最初から診療します。指導医とディスカッションしながら、診断・治療計画を立案し、初期治療を行いながら入院適応の判断をします(内科外科を問わず、日中のすべての救急搬送患者は総合診療科が初期診療を行います)。	
※入院患者の侵襲的検査・処置に立ち会います。	
※実習生は研修医同様、回診前に担当患者のラウンドを済ませ、その日1日の診療計画を立案しておくこと。	
※初日午前中はオリエンテーションを行います。	
【実習担当指導医】 東 光久 宮下 淳 高田 俊彦 林 理生 後期研修医5名	

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース:会津中央病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Aiduchuo Hospital)						
担当責任者	島貫 公義(臨床研修プログラム責任者)						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

地域の基幹病院として、地域社会の医療福祉の向上と健康保持に貢献することを目指し、法令を遵守し、安全な医療に努めると共に、全国にも目を向けた高度な医療を展開し、患者及び利用者様一人一人の要求に対応できる医療を提供します。また、第三次救命救急センターを有する病院として、24時間体制で救急医療をおこないます。当院では医師や看護師、薬剤師などの専門職種がお互いの知識や技術を尊重し合い、コメディカルスタッフとのチーム医療を大切にしています。より良い環境の中で「実践」を通して知識や技術を習得してもらう事を第一に考え、そのためのバックアップ体制を万全に整えてお待ちしております。産婦人科、外科、脳神経外科、救命救急センター、外傷再建センターでの実習が可能です。

学習目標

【一般目標】

1. より良い環境の中で「実践」を通して知識や技術を習得する。
2. コメディカルスタッフとのチーム医療を学ぶ。

【行動目標】

1. 手術に積極的に参加する。
2. チーム医療を学ぶため、多職種の職員とコミュニケーションをとる。
3. 緊急搬送症例を積極的に学ぶ。
4. 臨床研修医の日常を学ぶ。
5. 経験した症例について、指導医とディスカッションを行う。

テキスト

特に指定はありません。

参考書

評価方法

実習態度、指導医とのディスカッションなどにより、総合的に評価する。

その他(メッセージ等)

希望に合わせて、診療科や目標を設定しますが、重複した場合には異なる診療科での実習となることもあります。やる気のある方、お待ちしております。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

各診療科毎に分かれての実習となります。

産婦人科

症例の種類・数ともにとっても多い病院です。その為、バイタリティを持って実習に臨んでもらえれば、すぐに技術は身につけていきます。やる気さえあれば、色々な検査や治療などの、経験を積む事ができます。例えば、子宮筋腫治療のために、これまでの子宮動脈塞栓術に加え、FUS(集束超音波治療装置)という高度先進医療を取り入れています。他にも、腹腔鏡下手術や開腹の筋腫核手術、TCR(子宮鏡下術)、分娩、帝王切開、不妊治療など色々あります。一つの疾患に対しても患者さんの要求に応じて、様々な選択肢に応える環境が出来ています。

外科

外科研修では、一般外科・消化器外科・内分泌外科(乳腺外科、甲状腺、副腎などの内分泌臓器外科)の実習を行います。外科術前術後管理に必要なスキルの取得を目指し、呼吸・循環・代謝・感染などの全身管理法を研修します。また消化器病の総合診療研修を目指し、消化器内科との週2回の合同カンファレンスにも参加してもらいます。ダヴィンチシミュレーター、鏡視下のドライラボも行ってもらい、積極的に手術に参加して頂きます。

脳神経外科

当院では、脳神経外科医を24時間体制で院内に配置し、救命救急センターとの連携により、脳梗塞や脳出血などの救急時の対応もスムーズに行われます。特に緊急時は、救急専門医や脳神経外科専門医、麻酔科専門医のチームワークによって支えられ、スムーズに検査・治療が出来る体制になっております。会津地区の地域的な特徴もあり、広大な地域から沢山の患者さんが集まってきます。緊急手術症例数も多く、全ての検査、処置が迅速に行われるという面では、国内でも有数の施設と考えております。また、最近では、脳血管内治療にも力を入れており、一つの疾患に対し外科的アプローチ、内科的アプローチが可能とし、患者さんにとって最も最適な治療が選択できる環境を整えています。

救命救急センター

会津地区の広大なエリアから、救急車やヘリコプターで来院した重症患者の診療や治療を実習します。また、夜間休日外来に来院した患者で呼吸・循環・意識状態に重大な問題がある場合や病棟入院中の患者の急変にも対応しています。症例は数多く、多発外傷・中毒・呼吸不全・循環不全・複数科にまたがる重症疾患の入院診療を行っています。

外傷再建センター

外傷再建外科は、日本で稀な科です。そのコンセプトは、外傷の急性期から患者の治療を開始して、治療終了後の慢性期まで経過を観察します。その結果、現在行われているよい治療であったのか、あるいは後遺症がおこれば、その原因をフィードバックして、今後の治療にいかします。また、急性期の組織欠損や整復不能な骨折、あるいは、その後遺症に対して、再建学を駆使して、組織移植、人工関節などを用いて、症状を改善することを目的にしています。外傷の範囲は多臓器に及びますが、当院では、救急科、脳外科、外科、循環器、呼吸器、消化器、麻酔科など、各分野のエキスパートが揃っており、各科の診療を学ばせてもらっています。我々の治療範囲は、現在のところ、日本の整形外科の一部である四肢、骨盤を中心に治療していますので、整形外科とも密に連携しています。

【実習担当指導医】

武市 和之／病院長(産婦人科)
前田 佳一郎／副院長(脳神経外科)
島貴 公義／外科部長
土佐 亮一／救命救急センター所長
伊藤 雅之／外傷再建センター所長

科目・コース(ユニット)名	BSLアドバンスコース(協力病院コース: 済生会福島総合病院)						
(英語名称)	BSL Advanced Course (Saiseikai General Hospital)						
担当責任者	三瓶 光夫						
開講年次	6年	開講学期	前期	必修/選択	選択必修	授業形態	実習

概要/方針等

当院は、秋篠宮殿下を総裁とする済生会グループの一員で、恵まれない人々の手助けをするという「済生の心」を理念として、窮状を抱える目の前の方々の手をさしのべ続けています。診療科13、病床数216床で小規模な病院ですが、公的医療機関として、福島県立医科大学と密接な連携の下に包括的医療(保健・医療・福祉)の提供を目指して日々研鑽を積んでいます。平成25年12月より電子カルテ・オーダーリング・画像ファイリングを完備し診療体制を充実させています。臨床実習も数多く受け入れています。実際の現場でプライマリ・ケアを体験し学んでいただきたいと考えています。

学習目標

【一般目標】

診療における基本的な医療面接、基本的検査、診断、治療について考えていただきながら、実際の現場で患者さんをとおして疾患に対しての知識や技術をつかんでいただく。

【行動目標】

日常の診療を見学し体験する。多職種の職員と積極的にコミュニケーションを図る。毎日記録を付け振り返りをする。地域の方々と積極的に関わり合い理解するよう努める。あいさつや言葉づかいなど社会人としての規範を守る。

テキスト	特に指定はありません。
参考書	特に指定はありません。
評価方法	診療の様子、記録の内容、指導医とのコミュニケーションなどにより総合的に判定する。
その他(メッセージ等)	移動中の事故に気を付ける。 健康管理に注意する。 時間厳守など社会規範を守る。

授業計画/担当教員等

【授業計画】

外来診察見学、救急医療の見学実習
病棟実習
病棟回診見学
手術見学
各種検査の見学
振り返り

実習内容や見学など、希望があれば可能な範囲で柔軟に対応します。

【実習担当指導医】

三瓶光夫/済生会福島総合病院 副院長兼統括診療部長
各科指導医